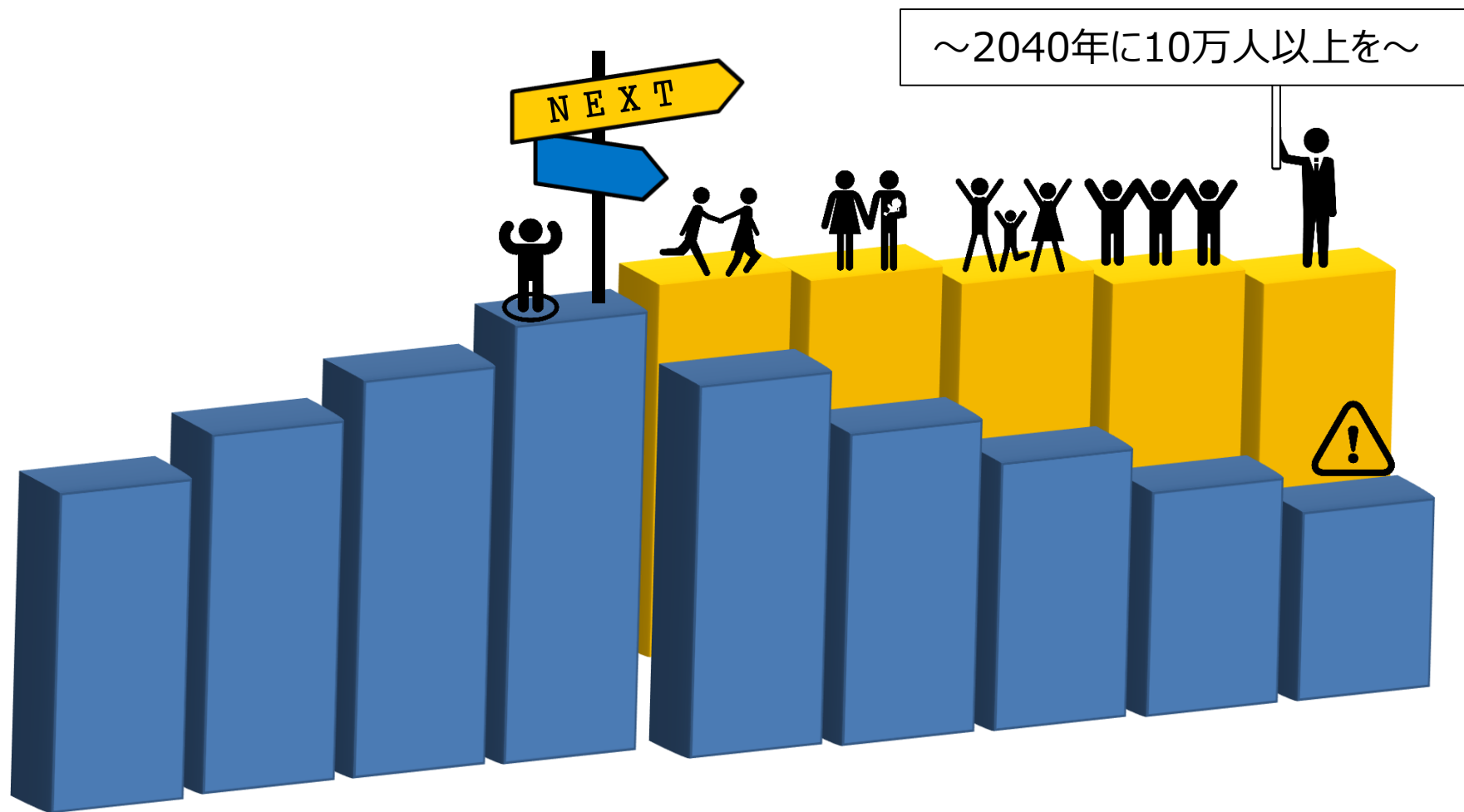




こまつ人口ビジョン

2015年10月 石川県小松市

目次

I こまつ人口ビジョンについて

- (1) 位置づけ
- (2) 人口ビジョン

II 人口の現状と人口減少の要因

- (1) 人口推移
- (2) 社人研予測
- (3) 10年ビジョン成行き予測
- (4) 市成行予測（年齢層別）
- (5) 人口動態
- (6) 自然動態
- (7) 合計特殊出生率の推移
- (8) 出生数と20～30代女性人口
- (9) 社会動態（転入・転出数）
- (10) 社会動態（転入転出先別）
- (11) 社会動態（男女年齢階層別）
- (12) 社会動態の傾向
- (13) 人口減少の要因
- (14) 人口減少による影響

III 人口の将来展望

- (1) 将来展望シミュレーション
- (2) 将来展望（年齢階層別）
- (3) 将来展望の実現に向けて
- (4) 3つのステイ指標
- (5) 小松市の人口目標

IV 資料編

- (1) 小松市の流動人口
- (2) 産業トレンドと小松市の強み
- (3) 小松市民（高校生）の
進学・就職に関する意識

I こまつ人口ビジョンについて (1) 位置づけ

■ 目的

小松市都市デザイン(基本構想にあたるもので対象期間は2015～2025 年。2015年10月 制定)で示した人口目標や都市デザインを目指し、国が示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び石川県の「いしかわ創生人口ビジョン」を勘案しつつ、2015年度から2019年度までの目標や政策の基本的方向、具体的な政策をまとめた「こまつ創生総合戦略」の策定に向け、本市の人口の現状と将来の展望を示す地方人口ビジョンとして、「こまつ人口ビジョン」を策定する。

■ これまでの取組み

2011年6月

10年ビジョン 策定
(2011～2020年)

市を取り巻く状況やチャンスをつえ、まちの新しい形をイメージで示し、地域の強みを活かしたまちづくり・ひとづくりを展開。

1st ステージ
アクションプラン 策定
(2011～2014年度)

ビジョンと政策・予算をリンクし、スピードを上げて実行するための旗管理方式による行動計画を策定。高い目標値のもと、時代を先取りして、PDCAサイクルによる先駆的な「地方創生」を実施。

2015年10月

小松市都市デザイン 制定
(2015～2025年)

「新たなライフスタイルへの変革とまちのブランド力向上」をコンセプトとしたまちづくりの指針を制定。(他都市での基本構想にあたるもの)

N E X T 10年ビジョン (2015～2025年) によりイメージ化し、「アクションプラン」と整合性を図り、「こまつ創生総合戦略」を展開する

I こまつ人口ビジョンについて (2) 人口ビジョン

2040年人口目標

❖ 人口 10万人以上

(サブ目標)

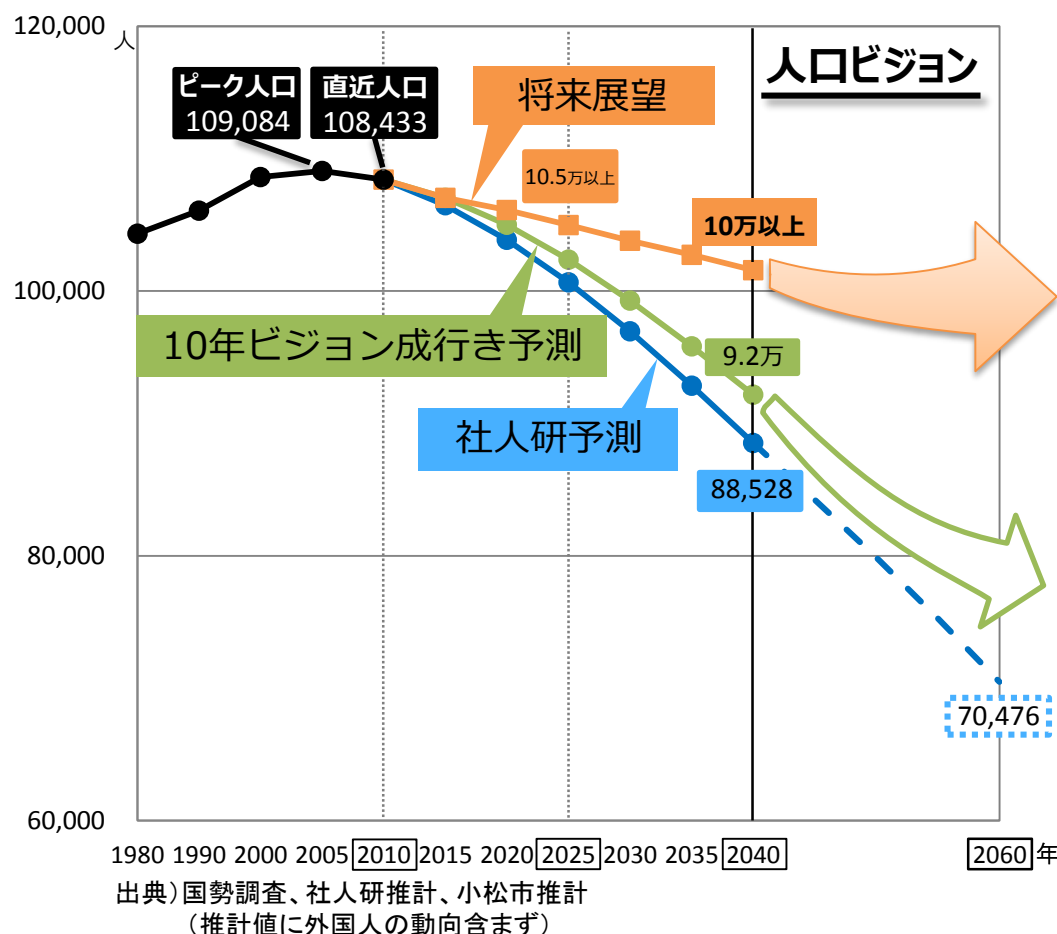
- ❖ 活力人口 5.5 万人以上
(15～64歳)
- ❖ 20歳未満人口 2万人キープ

人口目標を反映し、将来を展望

小松市都市デザイン

2025年 人口目標 10.5 万人以上

- (サブ目標)
- ❖ 活力人口 6万人以上
(15～64歳)
 - ❖ 20歳未満人口 2万人キープ



- 小松市の人口における現状とその要因について考察する
- 小松市都市デザインで示す人口目標を反映し、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」の推計期間である2040年までの人口の将来展望を示す

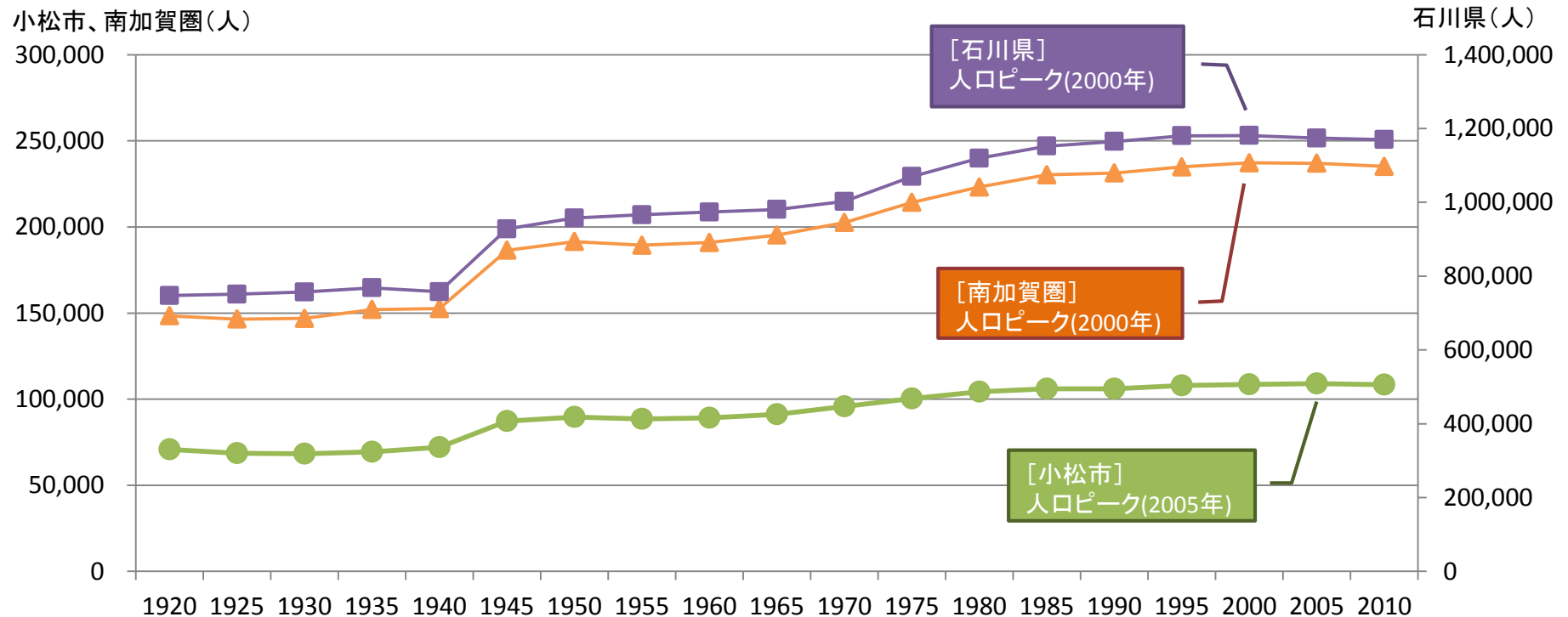
次頁より展開

Ⅱ 人口の現状と人口減少の要因

(1) 人口推移

■ 小松市は60年ぶりに人口減

- ・ 1955年(昭和30年)に人口減となって以降、2005年(平成17年)までは人口増加が続き、1975年(昭和50年)以降は10万人台で推移。2010年(平成22年)に前年比で約650人減の10万8,433人となった。
- ・ 石川県全体では、戦後一貫して人口増加を続けてきたが、2000年(平成12年)をピークに減少基調へと変化。



(注) 南加賀圏は小松市、加賀市、能美市、川北町の合計

(出典) 国勢調査

Ⅱ 人口の現状と人口減少の要因

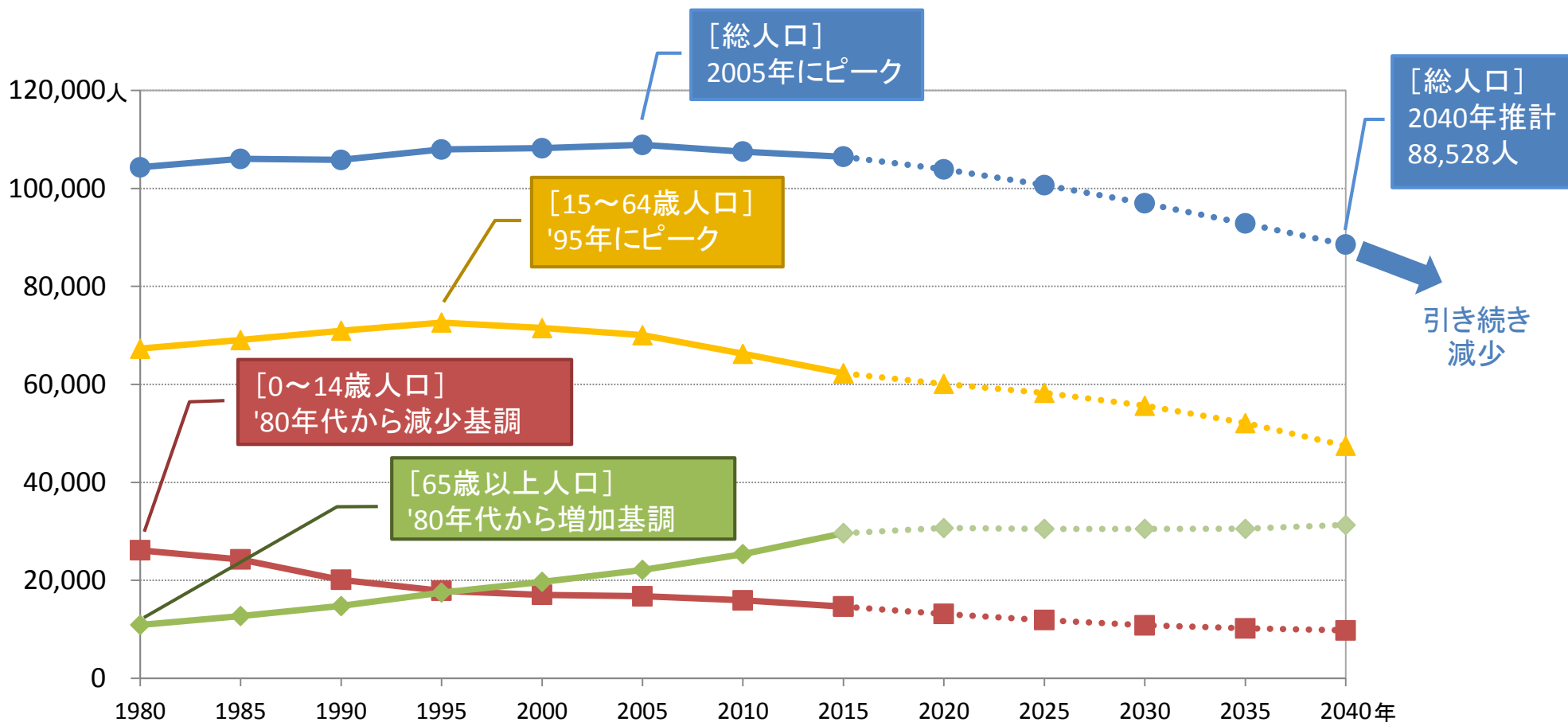
(2) 社人研予測

■ 2040年には2010年人口から2割減（約2万人減）と推計

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所（以降、「社人研」という。）の推計によると、小松市人口は2010年以降減少を続け、2040年は約8万9,000人になると推計されている。

■ 同様に人口減少していくと、2060年では7万人台になる傾向

- ・ 2040年以降も同様に人口減少すると仮定すると、2060年の本市人口は、2010年比の約65%になると推計されている。（日本の総人口においても、2013年比 約68%に）



Ⅱ 人口の現状と人口減少の要因

(3) 10年ビジョン成行き予測

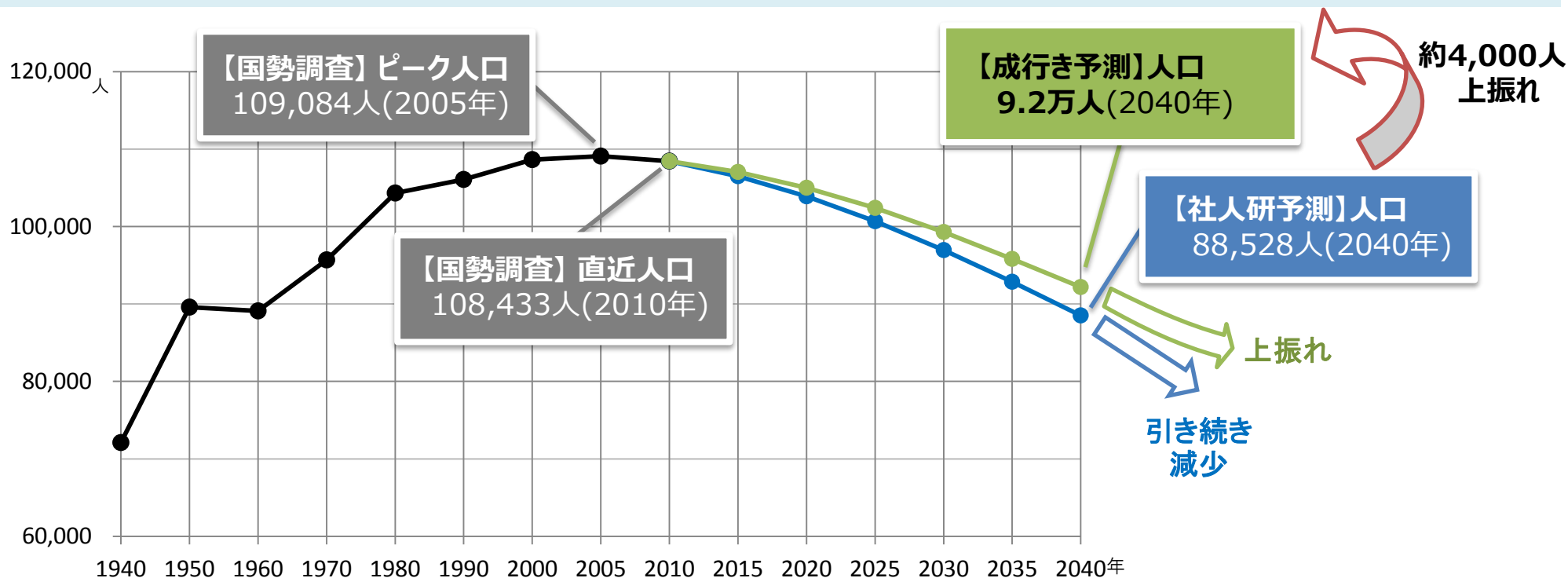
■ 小松市は、10年ビジョン（2011年策定）により、2040年の人口は約4,000人上振れ推計

- ・ 2011年に策定した「10年ビジョン」のもと、社会や時代変化を先読みし、本市の特長とチャンスを活かしたまちづくりを実行。これにより、社人研の予測と比較し、2010～2015年の実勢値において人口動態の改善しており、小松市の実勢値に補正した成行き予測では、2040年時点で社人研予測より約4,000人増加で上振れ傾向。

(1) 合計特殊出生率について、社人研予測では 2015年“1.55”から減少し 2040年“1.49”へ推移するのに対し、小松市の直近実勢値が“1.69”のため、小松市の成行き予測では、2040年まで“1.69”を維持として推計

(2) 15歳未満人口の社会動態について、社人研の予測と比較し年間20名程度プラスであるため、成行き予測に反映

※社人研予測の2040年人口に、(1)により＋約2,800人、(2)により、＋約1,200人の上振れを見込む

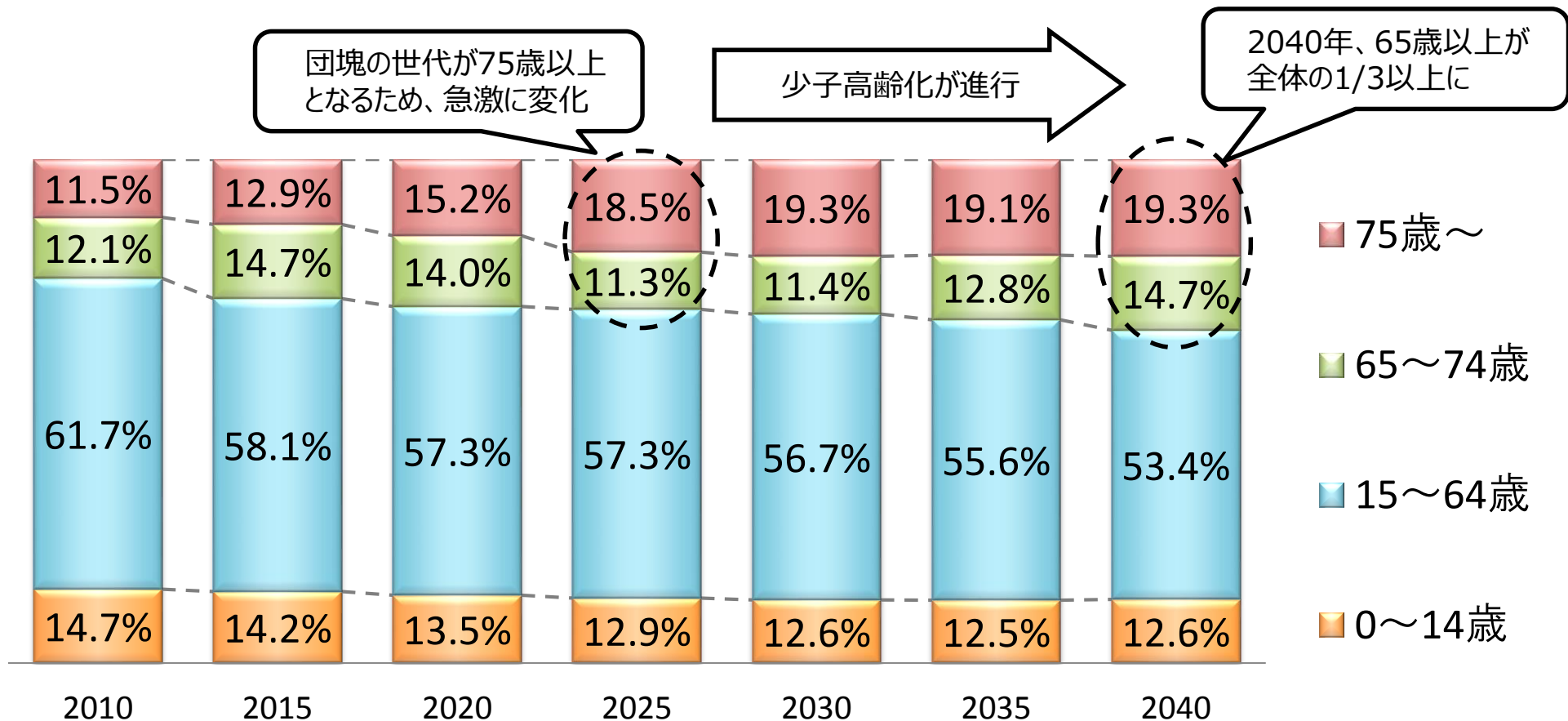


Ⅱ 人口の現状と人口減少の要因

(4) 成行き予測 (年齢層別)

■ 10年ビジョン成行き予測においても、少子高齢化は進行

- 65歳以上人口の増加に加え、15～64歳人口及び14歳以下人口の減少により、2040年には高齢化率34%に達すると予測される。
- 特に、75歳以上人口比率は2015年12.9%が2040年までに19.3%(6.4ポイント増)まで伸びている。
- これに伴い、医療や介護などの社会保障費や支える家族の負担が増大するとともに、まちの文化継承、地域コミュニティの維持、経済への影響等が懸念される。

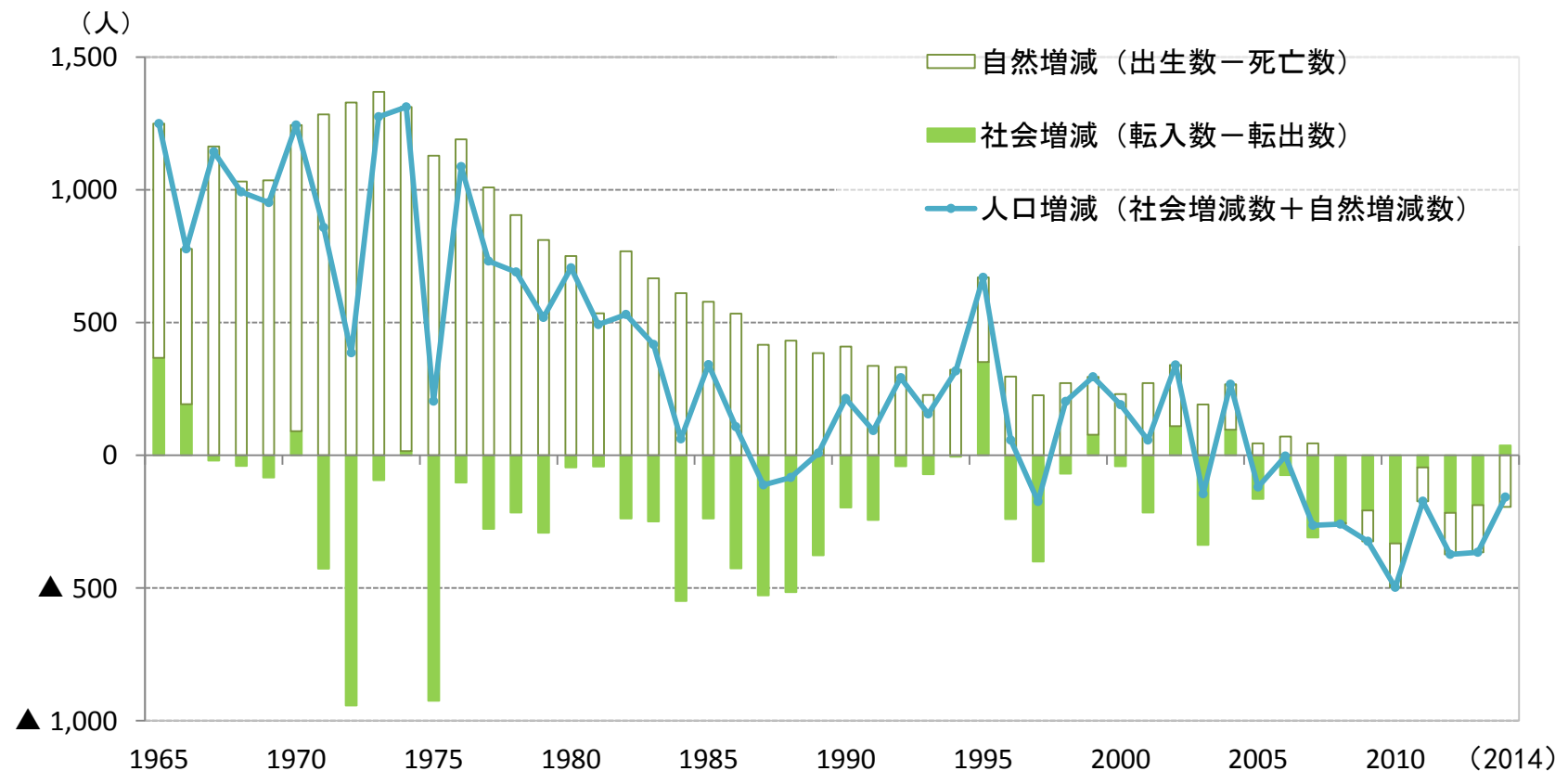


Ⅱ 人口の現状と人口減少の要因

(5) 人口動態

■ 社会減と自然減による人口減少

- 小松市は社会減を上回る自然増によって人口増を支えていたが、近年では出生数の減少と高齢化に伴う死亡数の増加により自然減に転じたことから、総人口も減少傾向にある。
- 社会増減は一貫して転出超過(流出)傾向にあるが、2014年は転入超過に転じている。



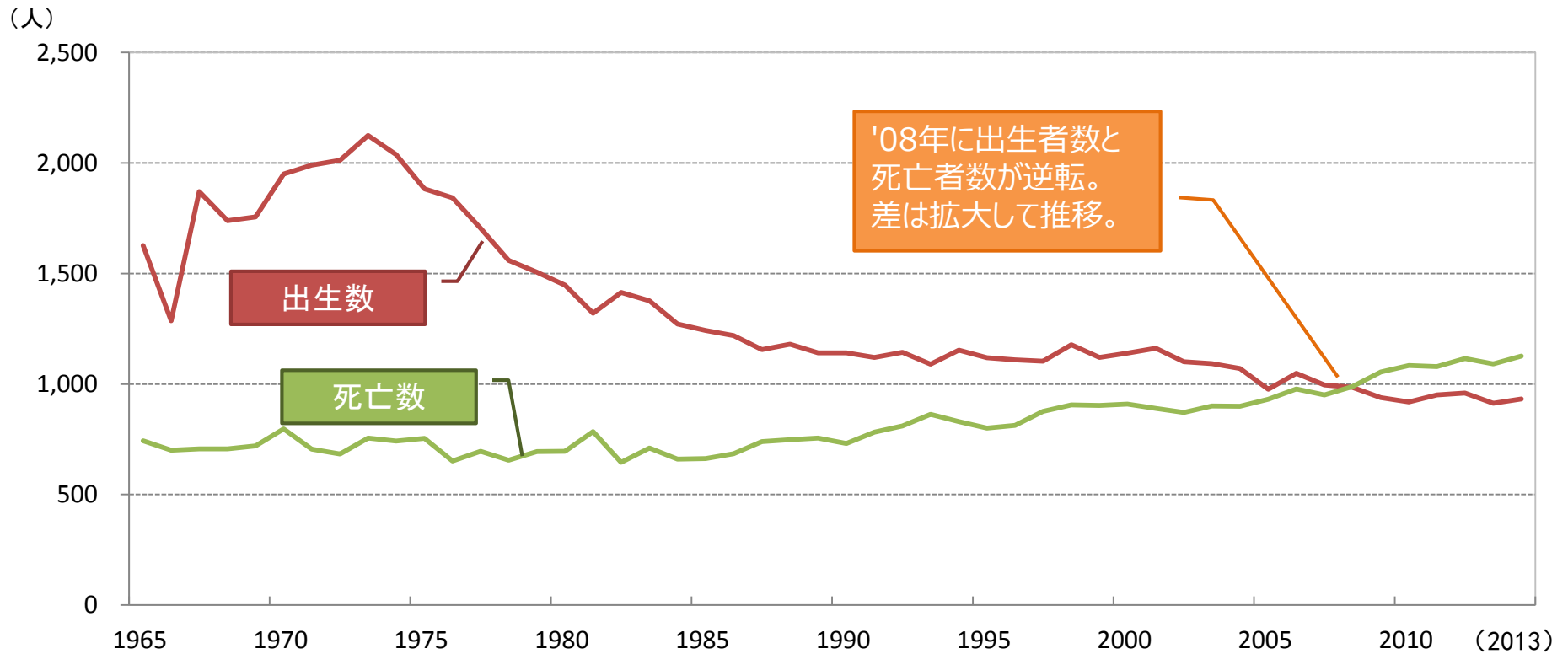
(出典)住民基本台帳

Ⅱ 人口の現状と人口減少の要因

(6) 自然動態

■ 自然減基調に転換し、減少幅が拡大

- ・ 出生数が死亡数を上回って推移してきたものの、平成20年(2008年)に両者の数が逆転した。
- ・ 以降、その差は少しずつ拡大してきている。



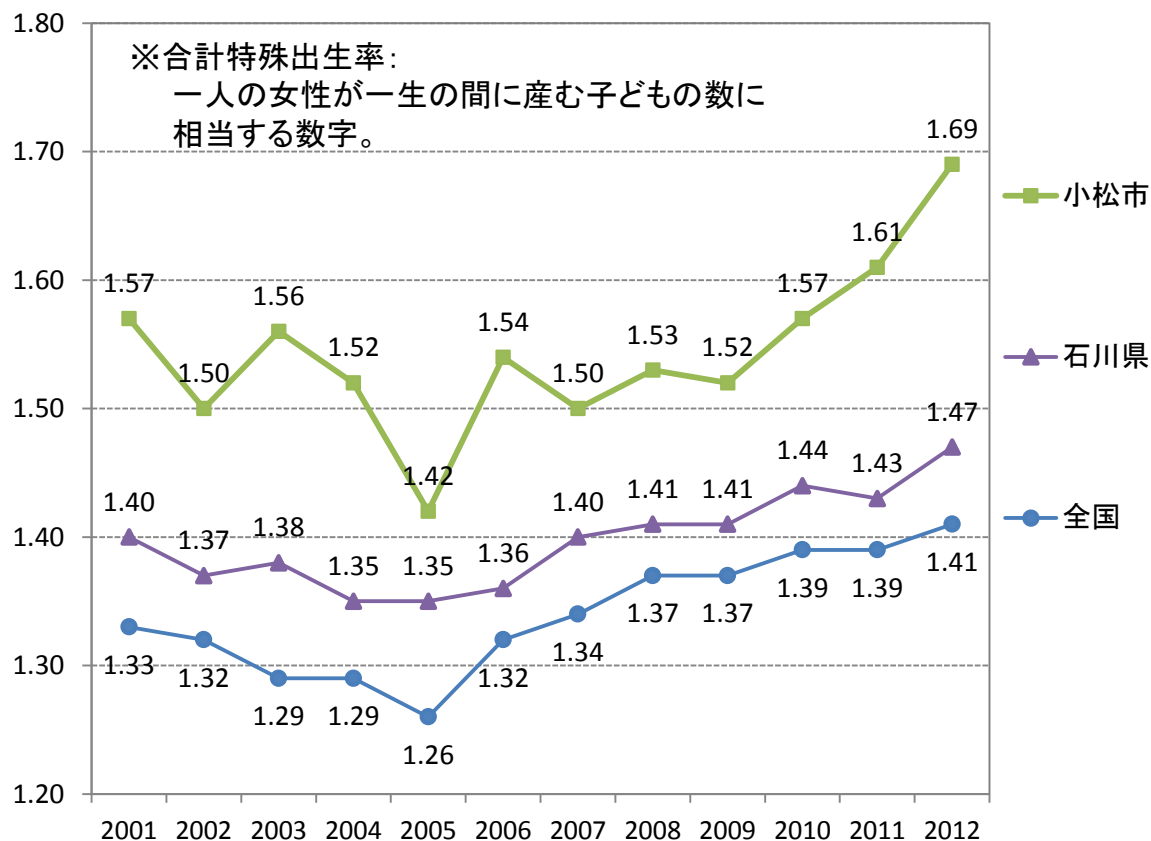
(出典)住民基本台帳

Ⅱ 人口の現状と人口減少の要因

(7) 合計特殊出生率の推移

■ 合計特殊出生率は上昇傾向にあり、国の目標値より5年以上先行して「2.07」に向かっている。

- ・ 小松市の合計特殊出生率は、直近値では1.69となるなど、国・県を上回り、かつ上昇基調で推移している。
- ・ しかし、人口を維持するのに必要な合計特殊出生率2.07を下回っていることから、出生数減少の一因となっている。
- ・ 「いしかわ創生人口ビジョン」の考え方に準じると、小松市は国より5年以上先行して「2.07」に向かっている。



(出典)人口動態統計、小松市資料

■ いしかわ創生人口ビジョンでは、石川県は合計特殊出生率が、**国より2年先行**して「2.07」に向かっているとされている。

(国の長期ビジョン)
2014～2040年の平均で年間「0.025」上昇させる
(石川県と国の差) 過去10年間の平均値で「0.05」
(先行年数は) $0.05 / 0.025 = \underline{\text{2年先行}}$

これに準じて考えると

■ 小松市は合計特殊出生率が、**国より5年以上先行**して「2.07」に向かっている。

(小松市と国の差) 過去10年間(※)の平均値で「0.14」

※直近年で値が確定していない数値を除いて平均を算出。

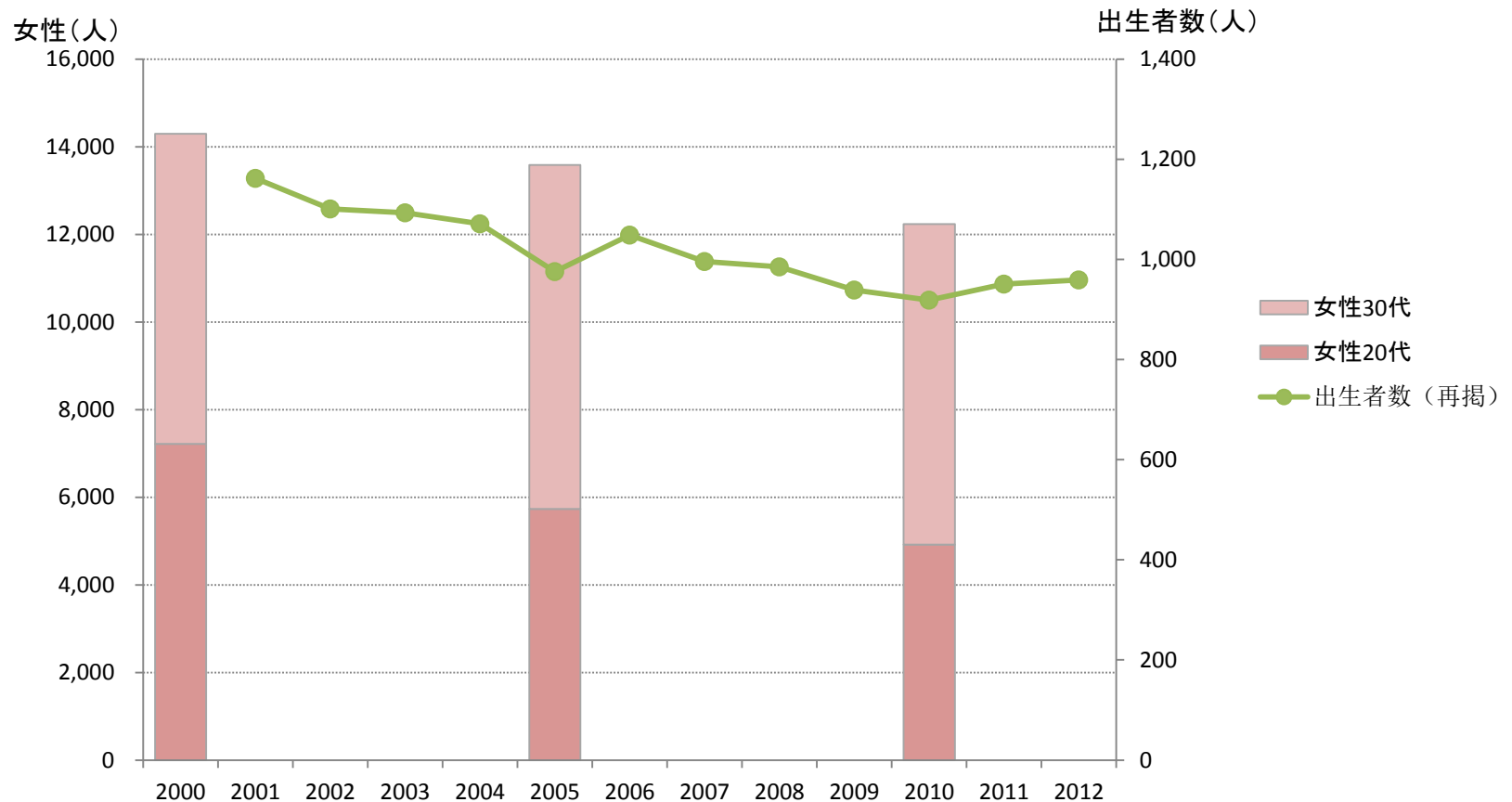
(先行年数は) $0.14 / 0.025 = \underline{\text{5年以上先行}}$

Ⅱ 人口の現状と人口減少の要因

(8) 出生数と20～30代女性人口

■ 合計特殊出生率の向上が20代、30代女性の減少で打消しに

- ・ 小松市の20代、30代女性は2000年～2010年にかけて約2,000人(14%)減少。
- ・ 合計特殊出生率は向上しているものの、上記年代の女性が減少しているために、出生者数も横ばいで推移。



(出典)国勢調査、住民基本台帳

Ⅱ 人口の現状と人口減少の要因

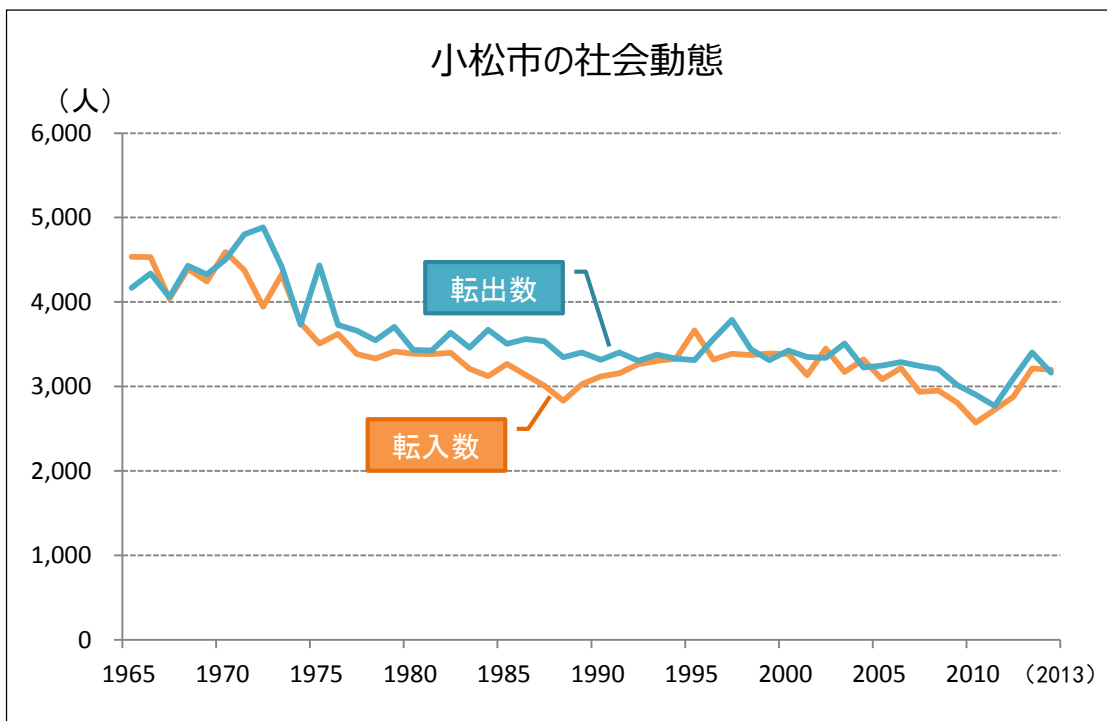
(9) 社会動態（転入・転出数）

■ 社会減基調で推移

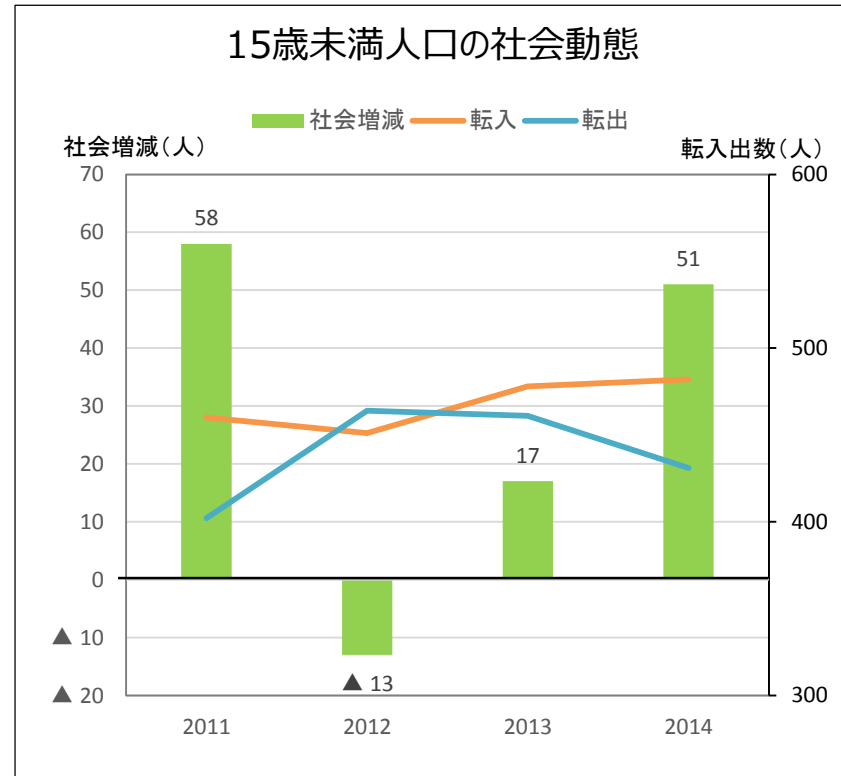
- ・ 例外年はあるものの、社会動態の面では概ね転出数が転入数を上回って推移してきた。
- ・ 近年は年間100人～300人程度の転出超過で推移。総人口比では0.1～0.3%程度だが、継続して転出超過傾向のため、長期的にみると無視できない大きさとなる。

(例) 2000年の総人口は約11万人。2000年から2014年にかけての社会減累計は2,140人なので、2000年総人口の約2%が14年間で減少したことになる。

- ・ ただし、近年の15歳未満人口の社会動態では、転入超過の傾向が見られる。



資料) 住民基本台帳



Ⅱ 人口の現状と人口減少の要因

(10) 社会動態（転入転出先別）

■ 周辺市への転出傾向

- 平成17年(2000年)から平成22年(2010年)の転入出状況をみると、転出者数は5年間で9,217人、転入者数は8,637人で、**580人の転出超過**。
- 転入超過者数が多いのは加賀市であるが、その他はおしなべて転出超過。
- 周辺の基礎自治体では能美市、金沢市、野々市市、都道府県レベルでは、愛知県、京都府ほか、首都圏に対して転出超過となっている。特に能美市へは、508人と大きな転出超過。
- 南加賀圏域での転入出は129人の転入超過。

南加賀圏域での転入出超過状況

＋：転入超過
▲：転出超過

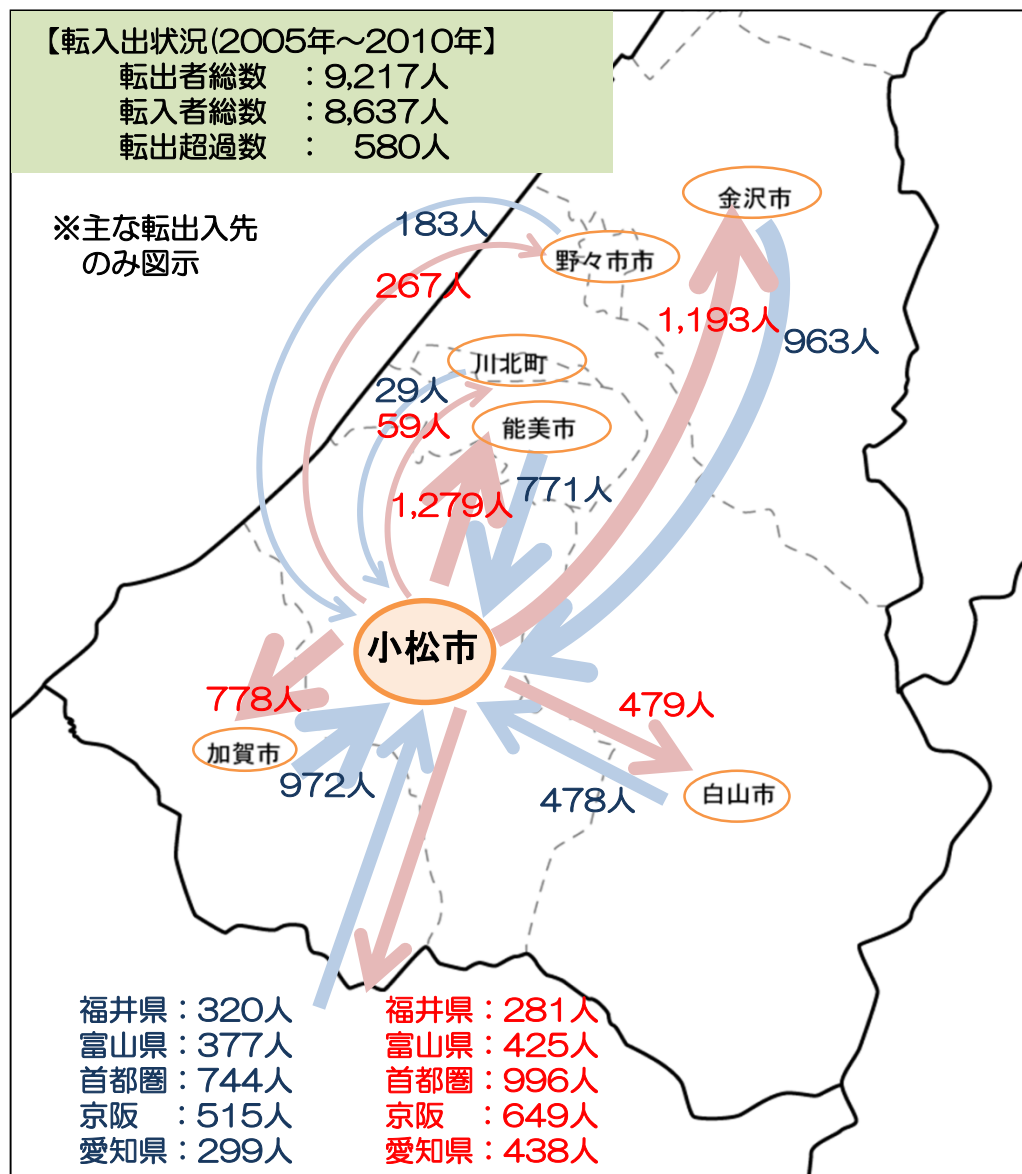
南加賀圏域への
転入出超過
＋129人



【転入出状況(2005年～2010年)】

転出者総数：9,217人
転入者総数：8,637人
転出超過数：580人

※主な転出入先のみ図示



資料) 国勢調査

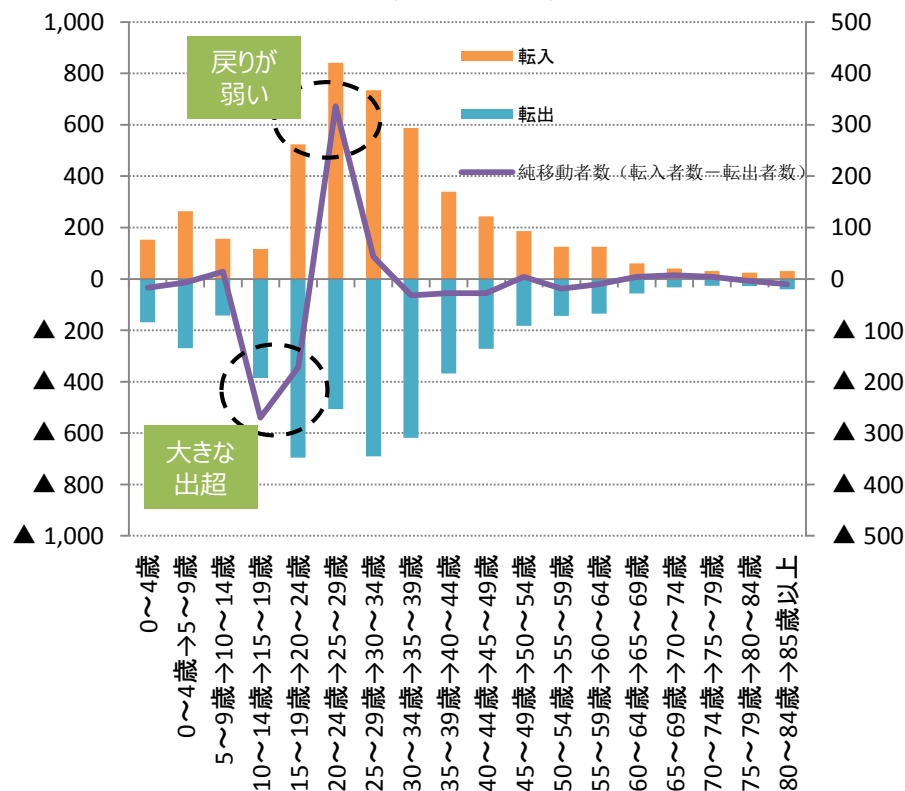
Ⅱ 人口の現状と人口減少の要因

(11) 社会動態（男女年齢階層別）

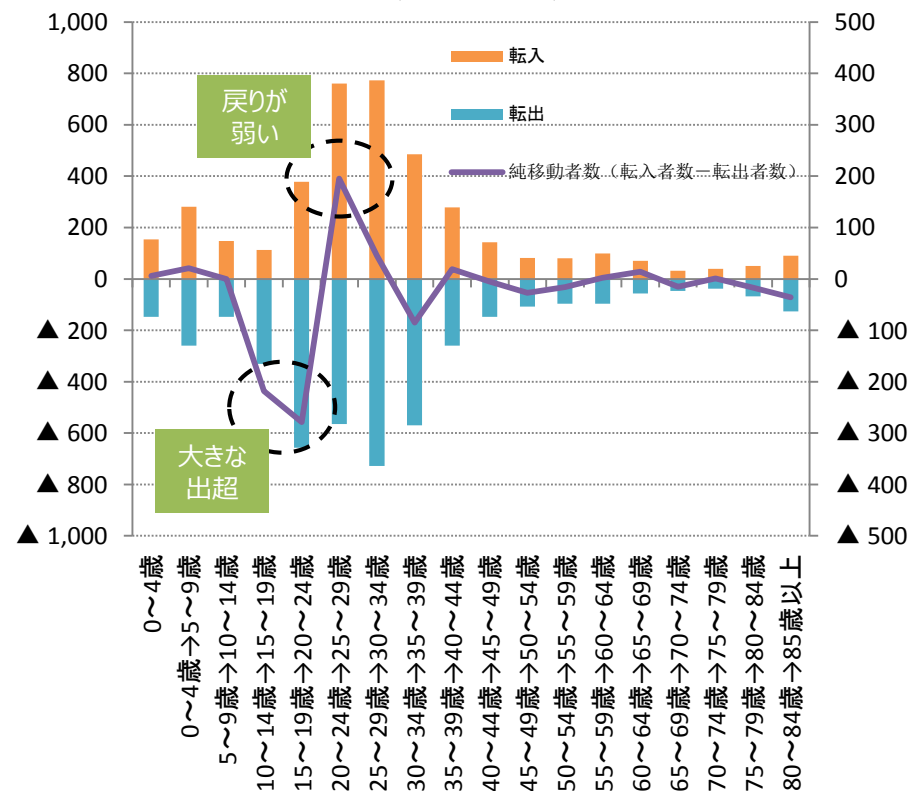
■ 高校卒業時に大きな転出超過傾向

- ・ 15～19歳、20～24歳の層で大きな転出超過となっている一方、25～29歳の層では大きな転入超過
- ・ 高校卒業時相当の年齢で市外に転出している者が多い一方、大学卒業時相当の年齢で市内に再転入する者が多い。
- ・ ただし、15～24歳層の出超を補うほどの20～24歳層の入超とはなっておらず、この傾向は女性の方が強い。

(転出入者数:人) 小松市男性転入転出者数 (純移動者数:人)
(2005→2010)



(転出入者数:人) 小松市女性転入転出者数 (純移動者数:人)
(2005→2010)



Ⅱ 人口の現状と人口減少の要因

(12) 社会動態の傾向

■ 転入出に占める大卒時の若者の移動が進んでいる

- ・ 高校・大学卒業時に小松市を離れる若者が多い一方、市外の大学卒業後等に戻ってくる傾向もある。
- ・ トータルでは転出率の方が高く、若者の減少が進んでいる。

男女別市内居住者の転入超過割合（大卒後年代）
（当該年齢階層の転入超過数／当該年齢階層の市内人口）

年齢階層	男性	女性
25～29歳	10.9%	7.3%

（出典）国勢調査（2010年）

❖ 大学卒業後の年代における市外からの転入率が高い



【市外】

・金沢市 ・能美市 ・加賀市
・東京都等の首都圏 など

男女別市内居住者の転出超過割合（高卒・大卒年代）
（当該年齢階層の転出超過数／当該年齢階層の市内人口）

年齢階層	男性	女性
15～19歳	▲10.7%	▲8.7%
20～24歳	▲7.7%	▲12.5%

（出典）国勢調査（2010年）
※転出超過のため▲

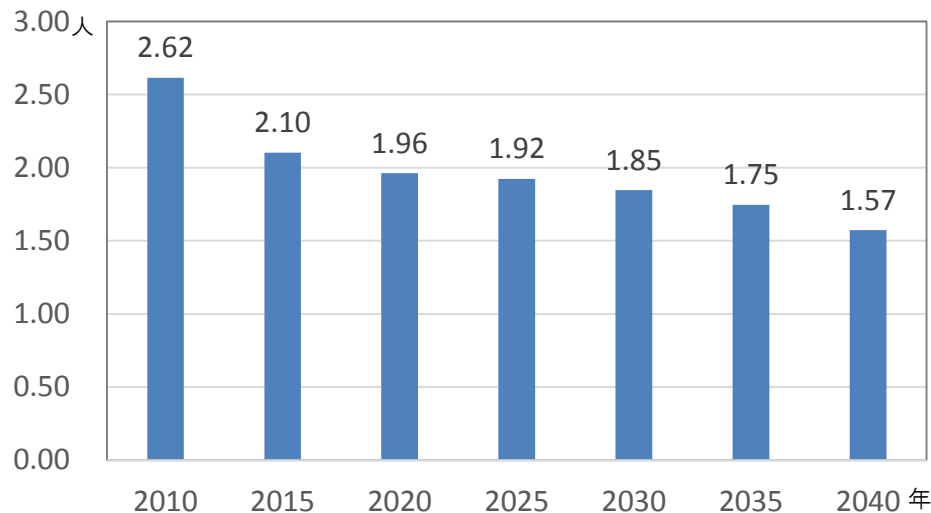
❖ 高校卒業・大学卒業後年代の転出率が高い。

Ⅱ 人口の現状と人口減少の要因 (14) 人口減少による影響

【人口減少、少子高齢化により】

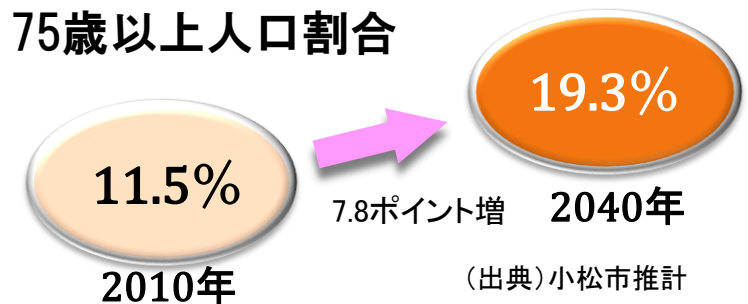
- 少子高齢化が進むことにより、生産年齢人口も減少 ⇒ 社会保障費の増加、支える家庭の負担が増大
- 働く世代が減少する ⇒ 企業活動の低下、消費の落ち込み等によって、経済的活動が減衰
- 自然や伝統文化の継承、地域コミュニティ等の活動が減衰
- 空き家や空き地の増加、公共インフラの維持負担が増大

65歳以上人口1人あたりの活力人口
(15～64歳人口／65歳以上人口)



(出典) 国勢調査、小松市推計

75歳以上人口割合



小松市介護給付費見込み



Ⅲ 人口の将来展望 （１）将来展望シミュレーション

■「小松市都市デザイン」で示したまちづくりの方針展開による人口シミュレーションでは、2040年に10万人以上

小松市都市デザインが実現し、2040年までに、出生率の向上、社会動態の改善、寿命伸長等が進むと仮定したシミュレーションでは、総人口は2025年で10.5万人以上、2040年で10万人以上になると推計。2040年では「10年ビジョン成行き予測」より8～9千人程度上積みされている。

将来展望シミュレーションの仮定

(1) 合計特殊出生率の上昇を仮定

- ・2025年に国民の希望出生率「1.80」へ（※1）
- ・2035年に合計特殊出生率「2.10」へ（※2）
- 2040年人口に2～3千人の上積み

(2) 健康寿命の伸長を仮定

- ・2016～2040年の25年間で65歳以上の方の寿命が1年伸長
- 2040年人口に0.5～1千人の上積み

(3) 社会動態改善を仮定

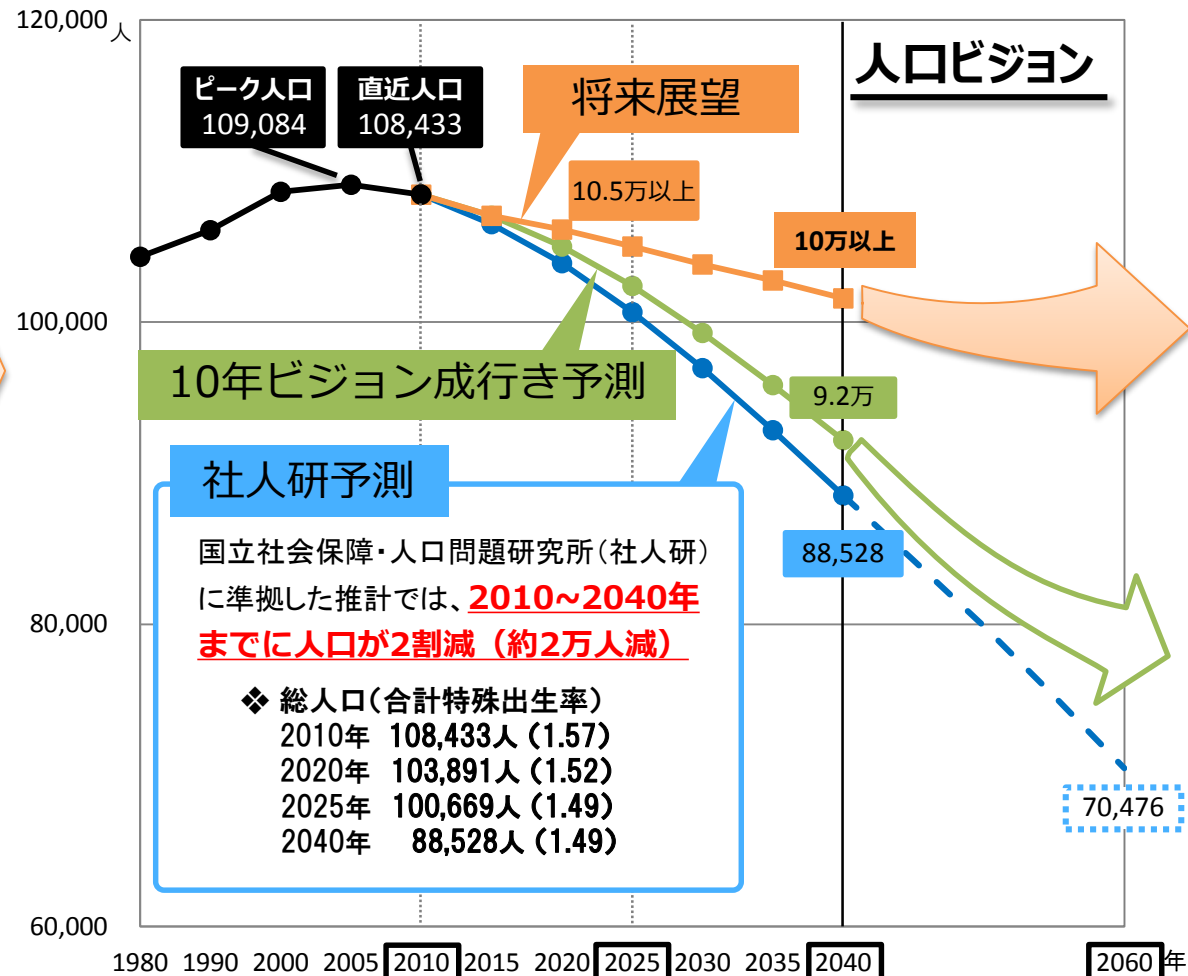
- ・高卒、大卒年代の方が年間100人増加
- ・小松市へU I J ターンする方が年間70人増加
- 2040年人口に5～6千人の上積み

※1 希望出生率

結婚や出産に関する希望が叶う場合の出生率。社人研が2010年の出生動向基本調査の結果を踏まえ“1.8”と算出。

※2 合計特殊出生率は国より5年以上先行

	(直近) 2020	2025	2030	2035	2040
将来展望	1.69	1.80	2.10	2.10	2.10
国ビジョン	1.60	1.80	2.07	2.07	2.07



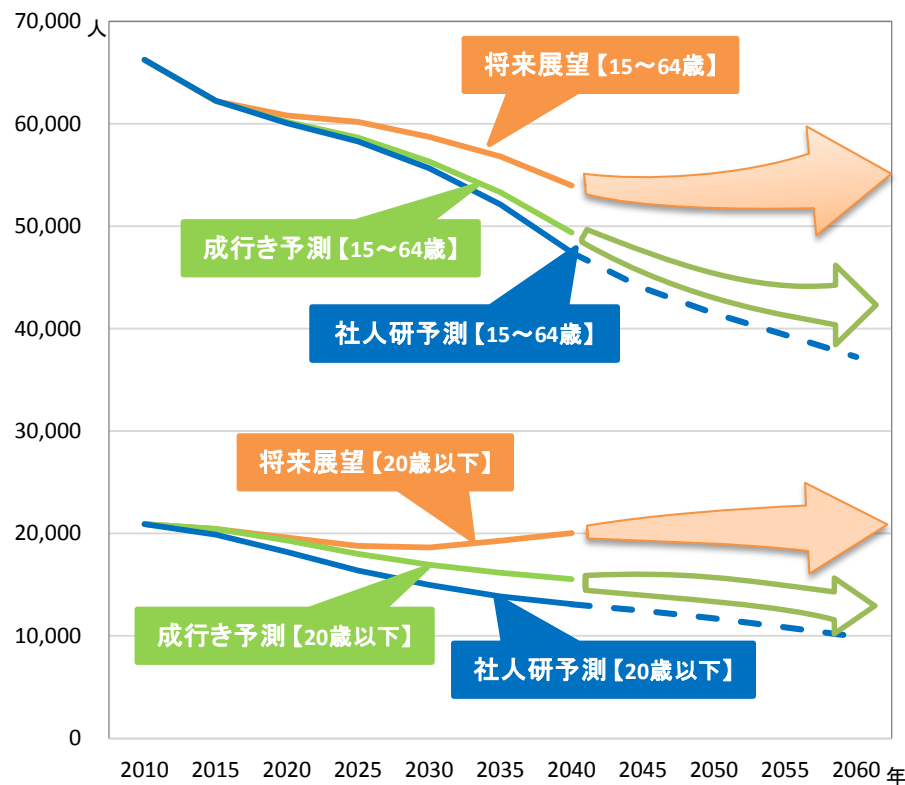
出典）国勢調査、社人研推計、小松市推計（推計値に外国人の動向含まず）

Ⅲ 人口の将来展望 （２） 将来展望シミュレーション（年齢階層別）

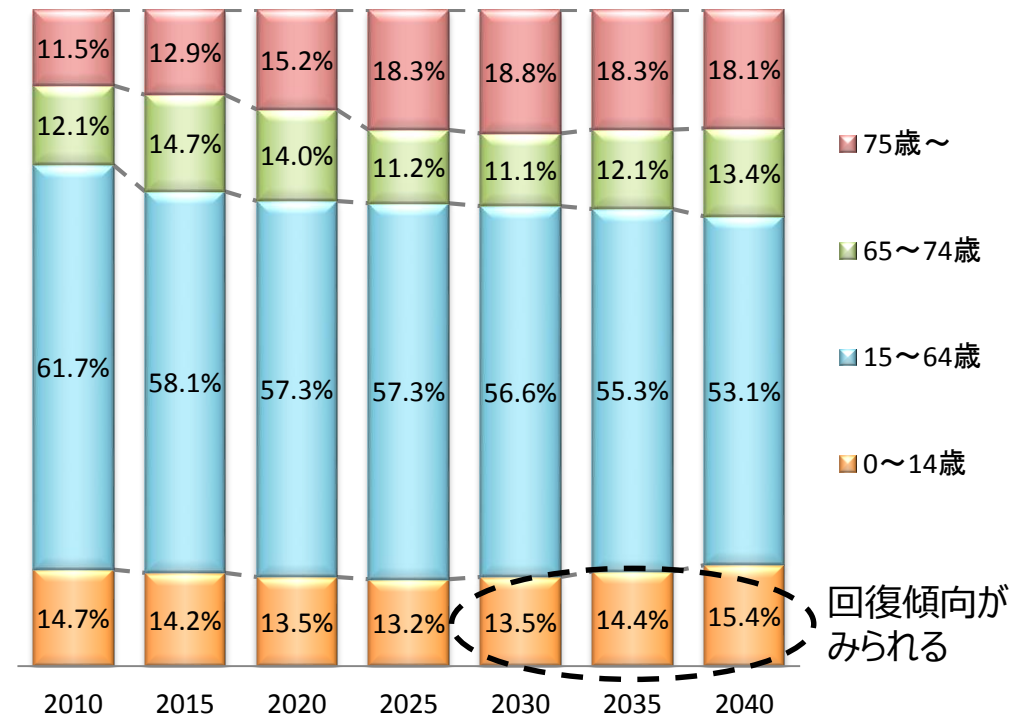
■ 将来展望シミュレーションでは、小松市都市デザインのサブ目標を達成し、その後の将来展望も改善傾向

- ・小松市都市デザインの人口サブ目標である20歳未満人口は、2025年に約2万人をキープし、その後も2万人をキープしていくと推計。
- ・同様に人口サブ目標である15～64歳人口（活力人口）は、2025年に約6万人程度となり、その後、減少に転じるが20歳未満人口の2万人キープにより将来展望は回復傾向になると推計。

小松市都市デザイン人口サブ目標の推移



将来展望（年齢階層別割合）



（出典）国勢調査、社人研推計、小松市推計

Ⅲ 人口の将来展望 (3) 将来展望の実現に向けて

2040年 10万人以上のため、10年ビジョン成行き予測+8,000人以上

【自然動態】

目標：2040年成行き人口に+3,000人以上

- ❖ 合計特殊出生率を2035年に2.10まで向上
(国、石川県は2.07を目標の最大値としている)

※合計特殊出生率は国より5年以上先行

(直近)	2020	2025	2030	2035	2040
市将来展望	1.69	1.80	2.10		
国ビジョン	1.60	1.80		2.07	

- ❖ いきいきシニア率を高め、健康長寿を伸長

こまつ創生を展開

- ❖ 女性のワーク・ライフ・バランス 
- ❖ 3世代、準3世代住まい 
- ❖ 日本トップクラスの子育て環境  など

【社会動態】

目標：2040年成行き人口に+5,000人以上

それぞれの人口を増加

- ❖ じも恋族 (地元に残り活躍する人びと)
- ❖ ふるさと回帰 (ふるさとへのUターン)
- ❖ ようこそ小松 (I・J・移住、外国人ステイ など)

こまつ創生を展開

- ❖ 仕事創出による転入 
- ❖ 地元への大学進学・就職 
- ❖ 住みよさを高め、定住・移住・外国人  など

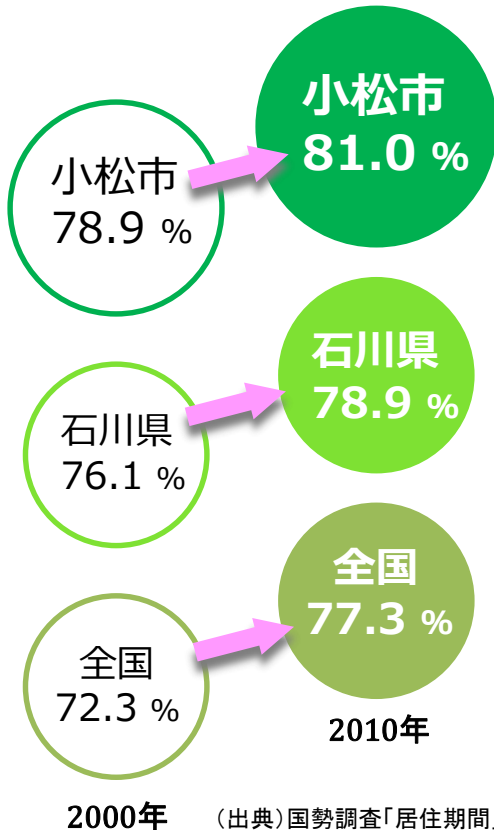
Ⅲ 人口の将来展望 (4) 3つのステイ指標

① じも恋族

地元に残り活躍する人びと

じも恋率

総人口に占める、小松市に
5年以上暮らしている人の割合



② ふるさと回帰

若者Uターン

ふるさと回帰率

高校・大学卒業年代(15～24歳)で
市外移動した人と、大学卒業年代
(25～29歳)で市内へ移動してきた
人の割合

大卒年代の
市内への移動
531人

高卒・大卒年代
の市外移動
939人

= 56.5 %

(出典)国勢調査「移動人口」(2010年)
※純移動数(転入出者数の差)を集計

③ ようこそ小松

IJ移住、外国人ステイ等

ようこそ小松人口

新たに小松市民
になった人数

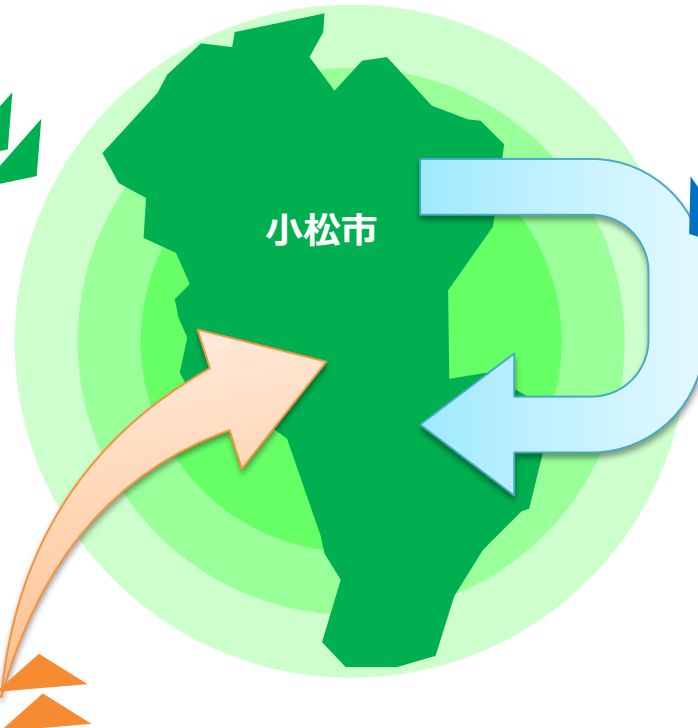
2,809人

2009年

(出典)住民基本台帳「転入者数」

3,199人

2014年



Ⅲ 人口の将来展望 （５）小松市の人口目標

将来展望

◆都市デザインの実現、
NEXT10年ビジョンのもと
こまつ創生等の展開により
人口増加をめざす

将来展望の人口目標

（合計特殊出生率目標）

活力人口目標
（15～64歳）

20歳未満人口目標

2020年	2025年	2040年
10.6万人 以上 (1.75)	10.5万人 以上 (1.80)	10.0万人 以上 (2.10)
6 万人以上		5.5万人以上
2 万人キープ		

10年ビジョン成行き予測

総人口 予測
（合計特殊出生率）

2015年
10.7 万人 (1.69)



2020年	2025年	2040年
10.5 万人 (1.69)	10.2 万人 (1.69)	9.2 万人 (1.69)

◆地方創生を先取りした10年ビジョンによるまちづくりで社人研より上振れ

社人研予測

総人口 予測
（合計特殊出生率）

実績値	推計値→
2010年	2015年
108,433人 (1.57)	106,479人 (1.55)



2020年	2025年	2040年
103,891人 (1.52)	100,669人 (1.49)	88,528人 (1.49)

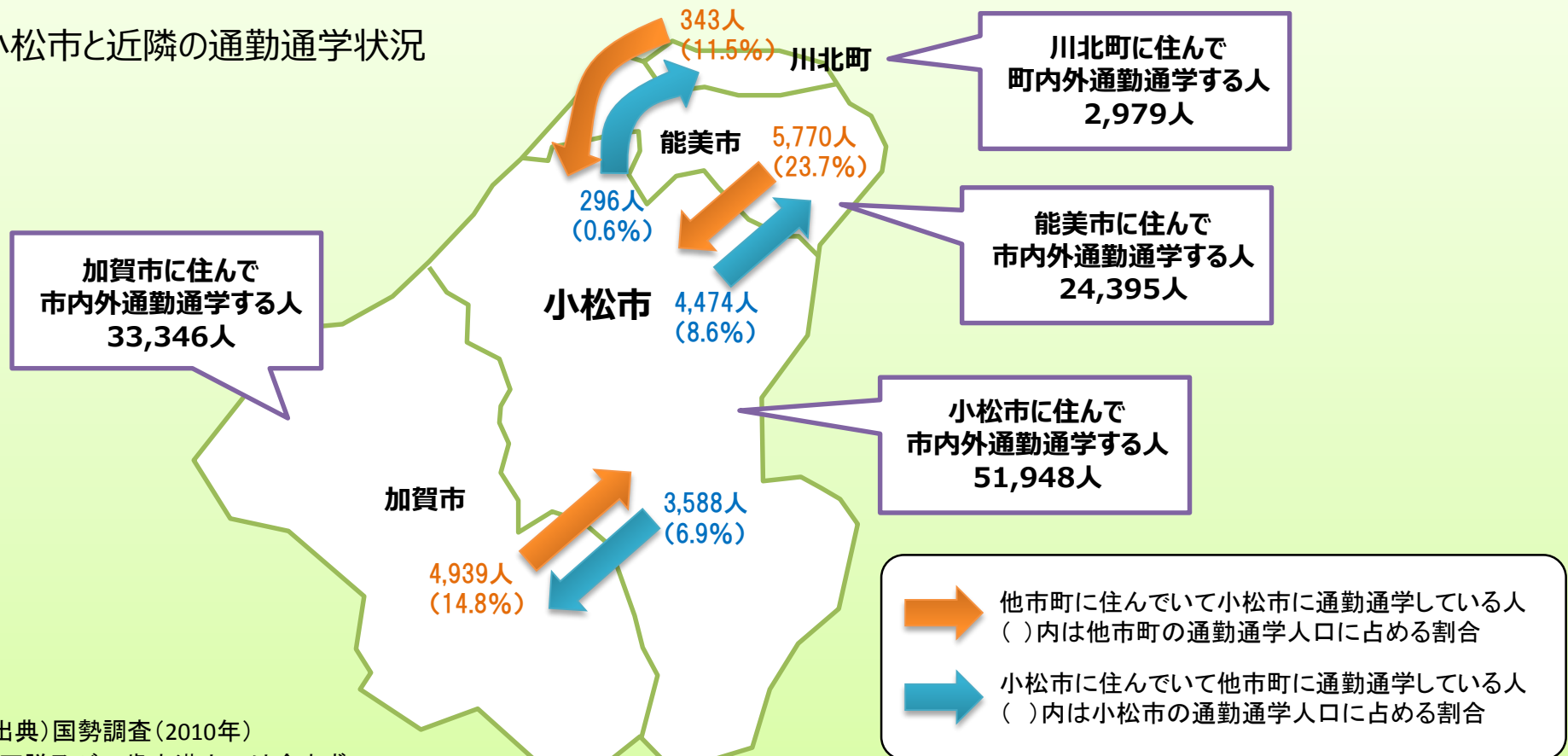
IV 資料編 (1) 小松市の流動人口（通勤通学圏）

■ 小松市を中心に、近隣3市1町で都市圏を形成している。

- ・ 本市と加賀市、能美市、川北町は、各市町の通勤通学人口の11.5%～23.7%が行き来している。
- ・ 小松市の昼夜間比率は1.01（昼間人口：109,758人、夜間人口：108,433人）であり、昼間人口の方が多い。

※昼間人口：従業地・通勤地で集計した人口（昼間にいる人口） ※夜間人口：その地に住んでいる人口（自宅がある場所で集計した人口）

小松市と近隣の通勤通学状況



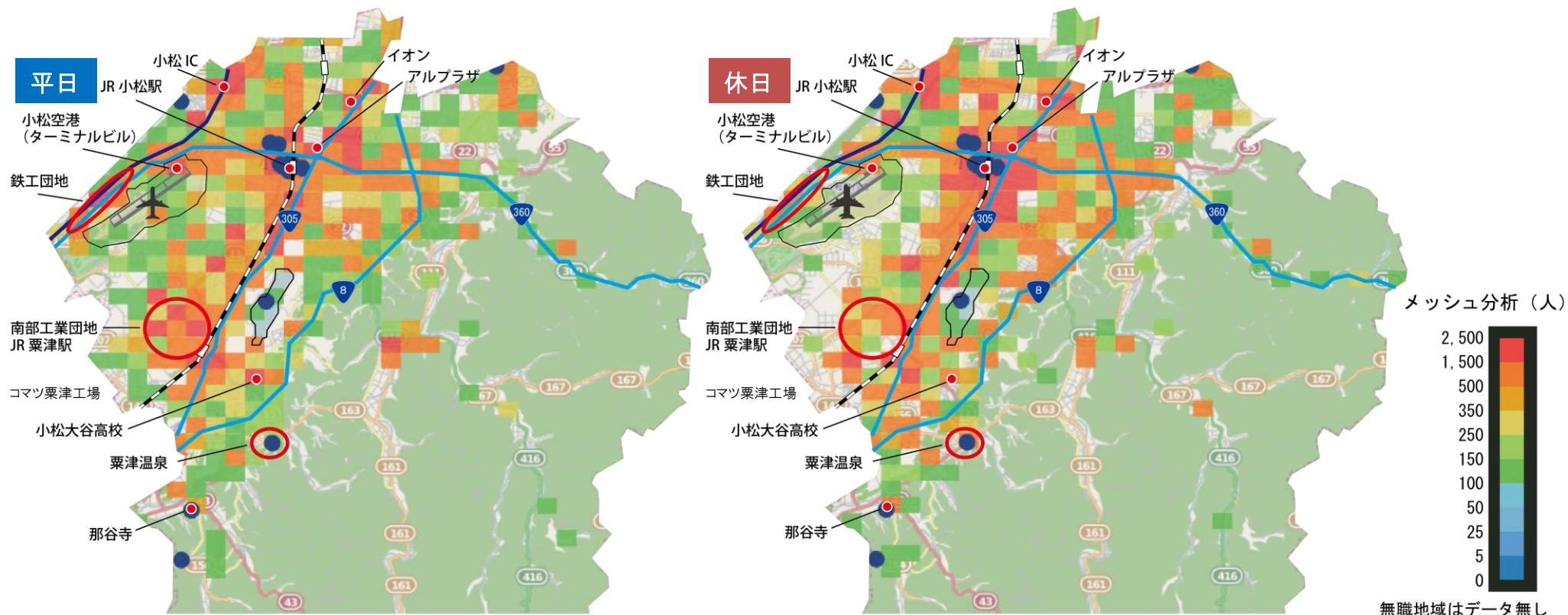
IV 資料編 (1) 小松市の流動人口（流動人口）

地域経済分析システム(RESAS)
観光マップ 分析

■ 平日は市街地に人口が分散、休日は商業ゾーン・観光地・ターミナルに高い集客性

（観測点：2014年7月の13時時点での滞在人口の集中度をプロット(メッシュは500m四方)）

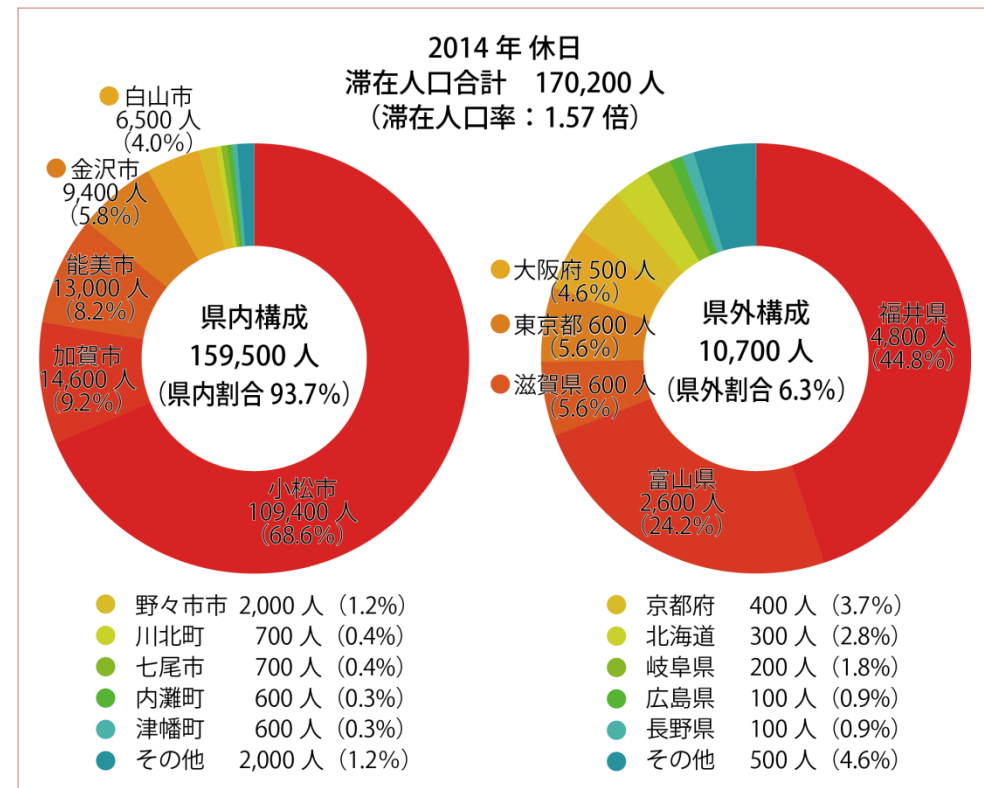
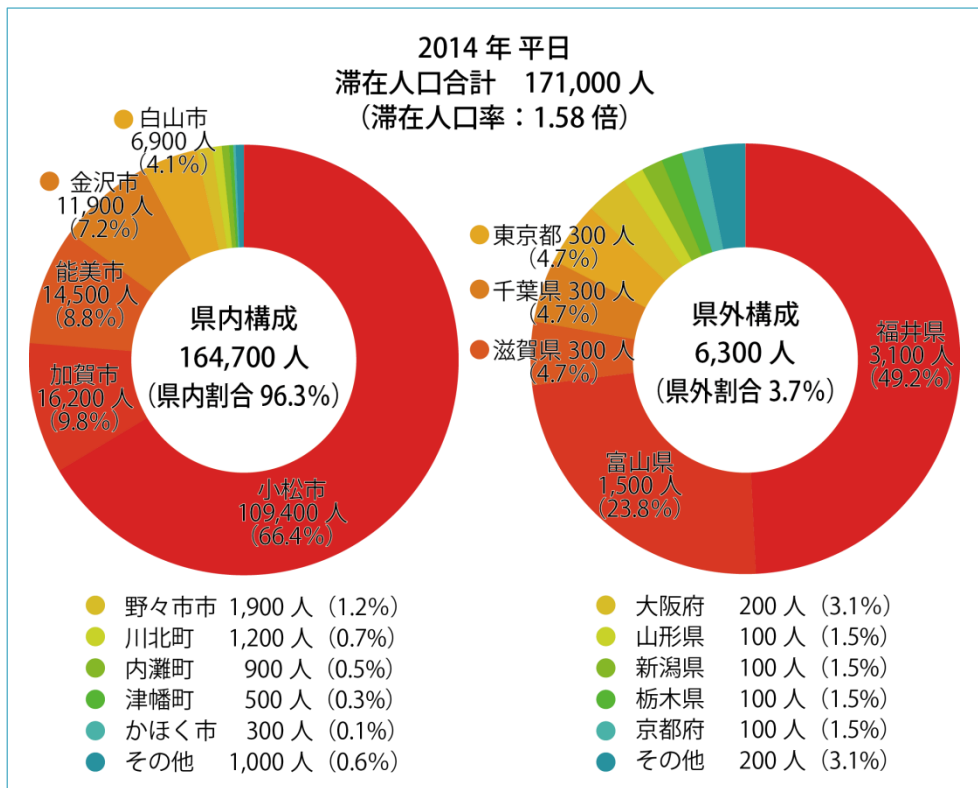
- ・ 市内で人口集中度が高い地点は、小松空港、小松駅、小松ICのアクセス拠点、幹線道路沿線、商業施設 等
- ・ 平日は、産業団地エリアや周辺の幹線道路沿線での密度が高いことから、市街地の広範囲において、業務や物流等の高い活動があることが推察される（一方、国道8号沿線エリアは、休日の方が高い（＝ドライブ利用者等と推測））
- ・ 休日は、小松駅周辺エリアや、沖・清六地区の商業ゾーン、木場湯周囲や粟津温泉において密度が高まることから、郊外店での買い物や娯楽、レジャー等を目的とした、人の往来が推察される



IV 資料編 (1) 小松市の流動人口（滞在人口）

地域経済分析システム(RESAS)
観光マップ 分析

- 滞在人口： 午前4時の滞在場所を基準に、本市に2時間以上滞在した人数（観測点：2014年平日・休日別滞在人口）
- 通勤・通学、ビジネス来訪、観光等により、常住人口を上回る高い人の流入がみられる
 - ・ 滞在人口は、平日・休日ともに約17万人で、本市常住人口（2010年国勢調査）の1.6倍
 - ・ 本市の滞在人口の約86%程度は、南加賀地域の人口が占めている（平日：85.7%、休日：86.4%）
 - ・ 県外由来の滞在人口は、休日は平日の1.7倍となっており、ビジネスだけでなく観光やレジャー目的での来訪も多いことが推察される。
 - ・ 小松空港を利用する通過人口が含まれていることも推測されるため、空港を活かした広域情報発信等が見込まれる。

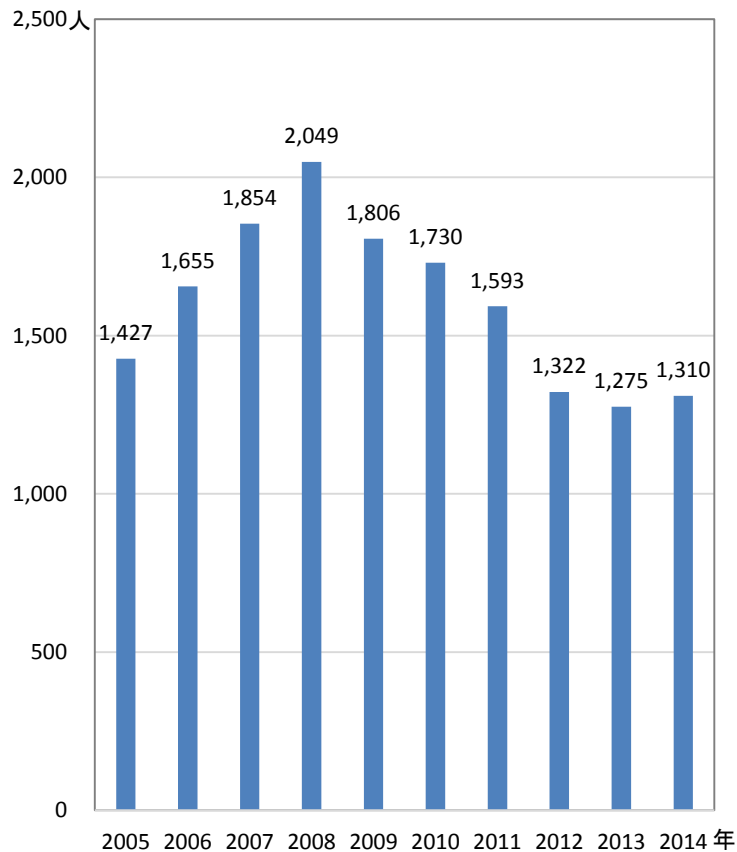


IV 資料編 (1) 小松市の流動人口（外国人人口）

■ 小松市は外国人住民数は増加の兆しあり、海外の宿泊者数は5年間で約2倍に増加

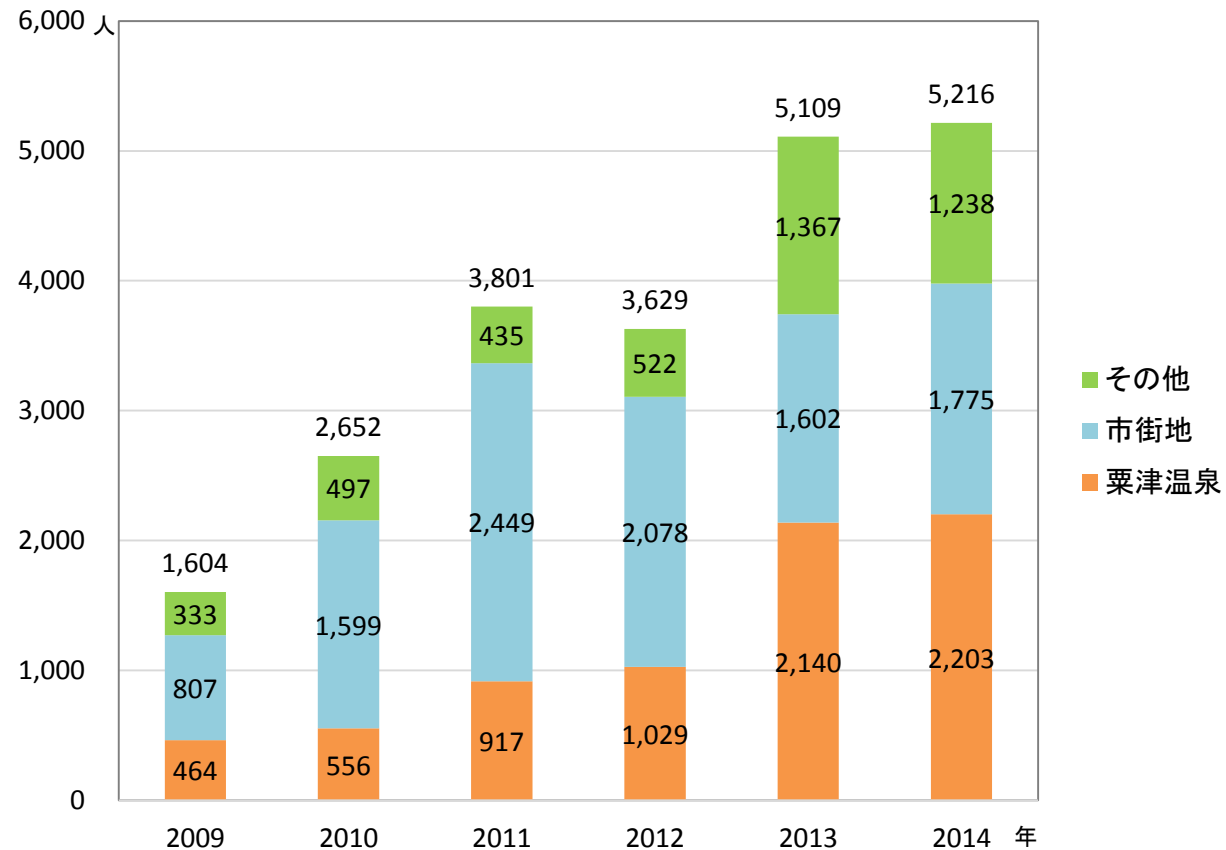
- 外国人登録者数は2005年以降増加傾向であったが、2008年のリーマンショック以降減少が続いた。2014年には、増加に転じており、回復の兆しがある。
- 小松市は粟津温泉をはじめとして、海外の宿泊者数も増加傾向にある。2010年から2014年までの5年間で約2倍。

外国人住民数



(出典)小松市住民基本台帳

外国人宿泊者数

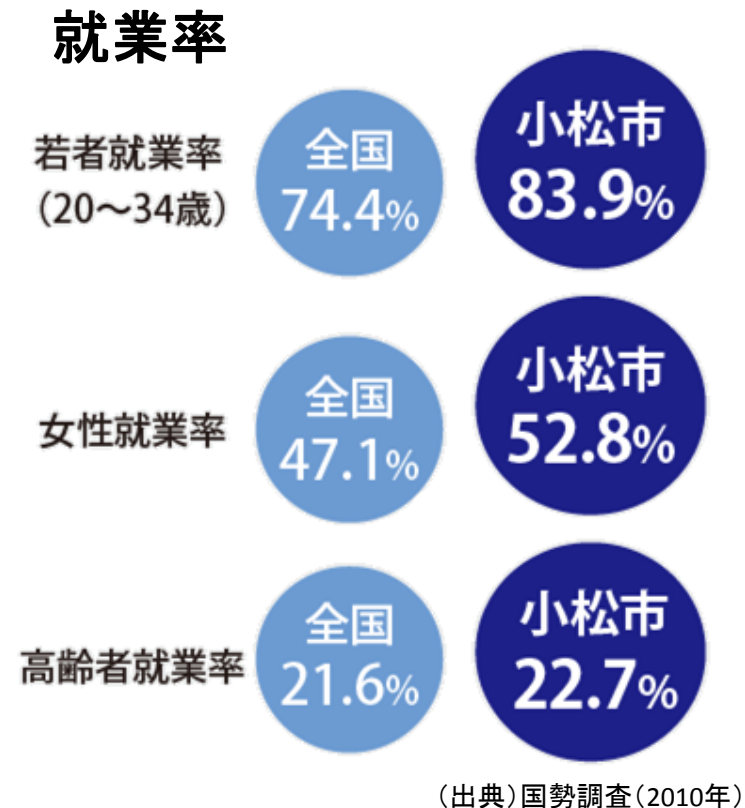
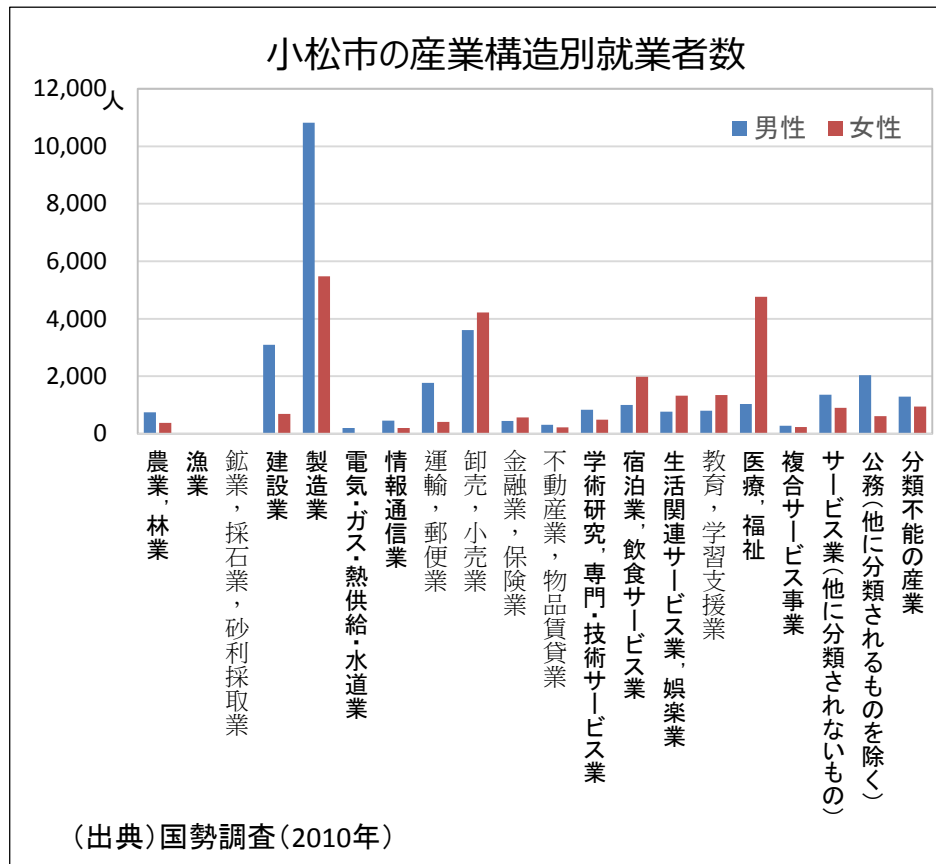


(出典)小松市統計

IV 資料編 (2) 産業トレンドと小松市の強み (就業人口)

■ 小松市は、製造業の就業者が多く、若者・女性・シニアの就業率も高い

- ・ 就業者数の構成をみると本市就業者の約3割を製造業が占めている。男性の就業者が多いが、全国比較すると女性の製造業就業者も多い。
- ・ 続いて、卸売・小売業が男女とも多く、建設業では男性が、医療・福祉では女性の就業が多い傾向にある。
- ・ 若者・女性・シニアの就業率は、ともに全国値を上回っており、今後も若者・女性・シニアが小松市活性化の鍵を握る。



IV 資料編 (2) 産業トレンドと小松市の強み (産業の特長)

■ 小松市は、製造業を中心とした国内有数の機械産業クラスターが形成されている

- ・ 小松市で(域外から)稼ぐ力が最も強い産業は生産用機械器具(次いで繊維、家具・装備品)
- ・ 生産用機械器具では、本市はコマツのマザー工場集積をはじめとした、強力な産業集積がある。
- ・ 本市の製造品出荷額は県内第1位の値(県内比率23%)であり、小松市を中心とした南加賀圏域が石川県の産業競争力を支えている。本市の製造品出荷額は北陸3県でも第2位を誇る。(2013年工業統計より)

小松市産業競争力上位業種

	特化係数
生産用機械器具	7.74
繊維	6.79
家具・装備品	4.78

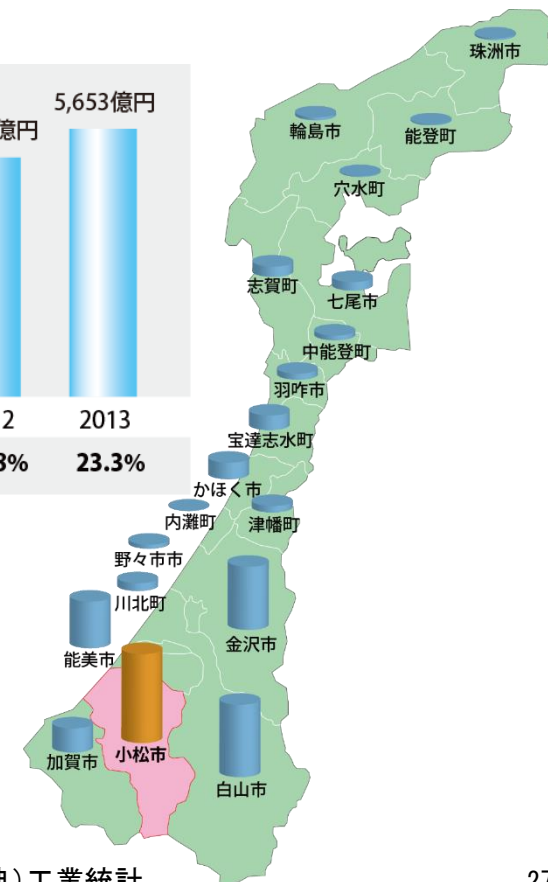
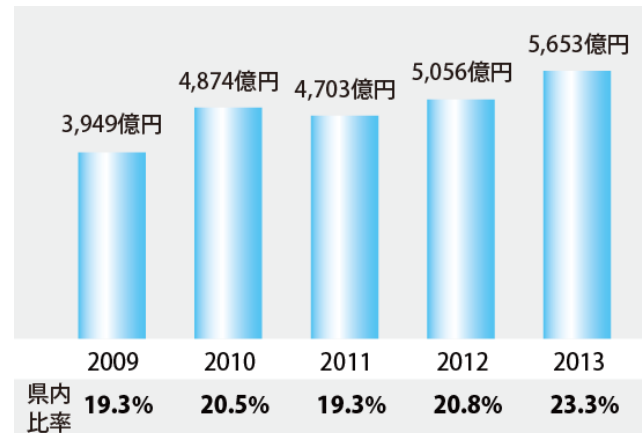
石川県産業競争力上位業種

	特化係数
繊維	3.31
生産用機械器具	2.79
電子部品・デバイス	2.03

(出典)国勢調査(2010年)から作成

※特化係数は、就業者構成比を同全国比で除した値で、1を超えると全国比より強い産業であると判断される

小松市の製造品出荷額等



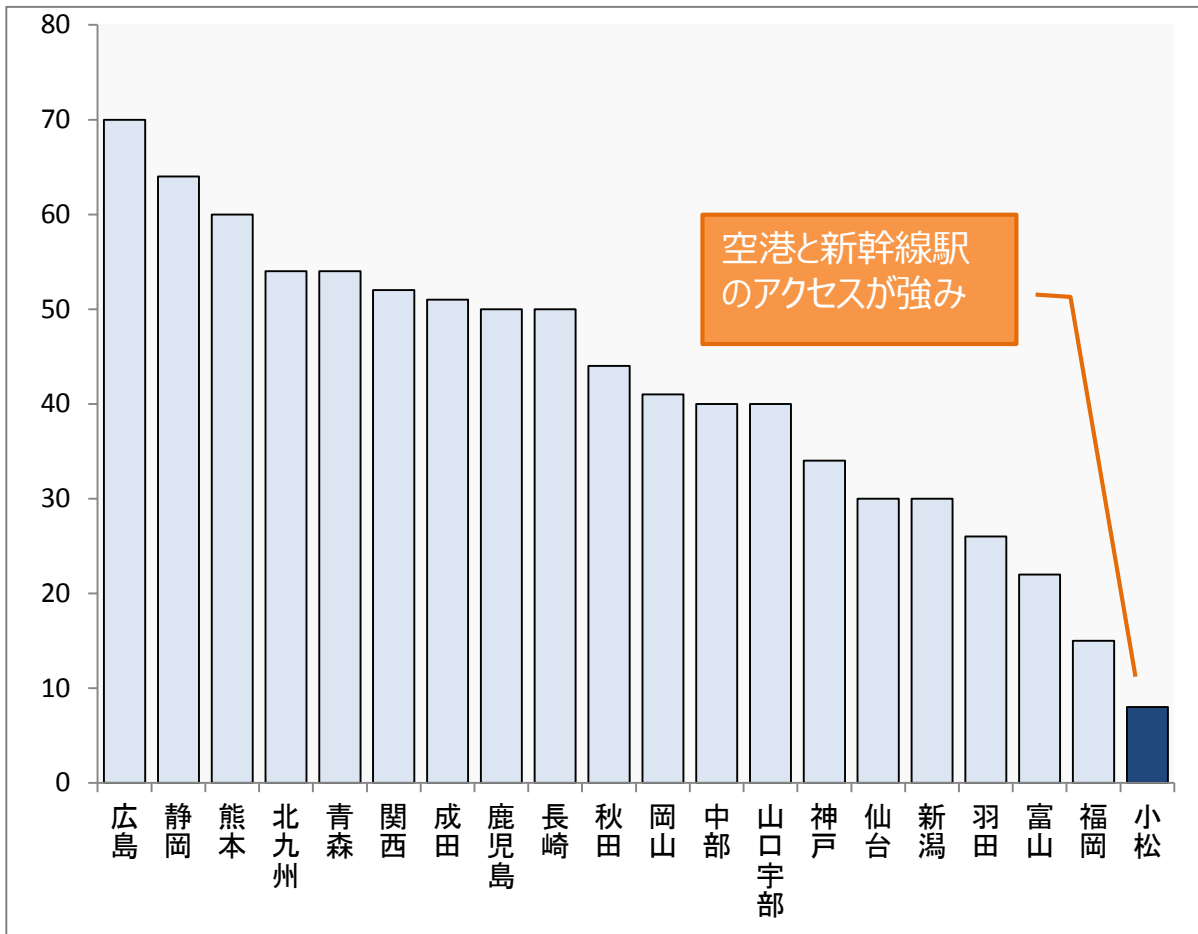
(出典)工業統計

IV 資料編 (2) 産業トレンドと小松市の強み (アクセス)

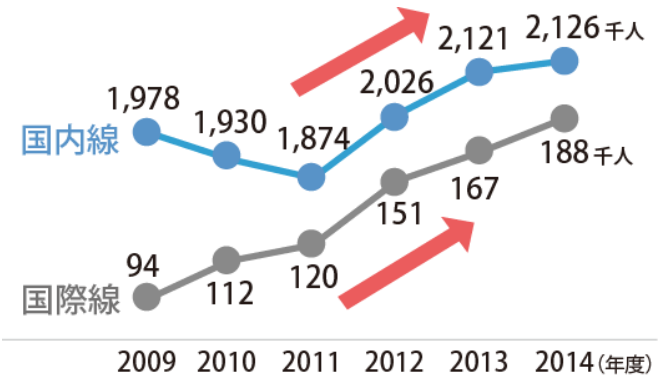
■ 小松空港は新幹線駅と一体化すること等によりグローバル拠点へ

- ・ 小松空港は、2023年に北陸新幹線小松開業と一体的な運用が可能であり、高速インターも近く、国際物流拠点としても優れており、空港＋新幹線によってローカル拠点からグローバル拠点に進化が可能

空港別（国際線）新幹線駅までの時間距離（分）



小松空港利用者数



（出典）国土交通省航空局
「暦年・年度別空港管理状況調査」

- ◆ 本州の日本海側の空港の内
乗降客数・貨物取扱量 **第1位**
- ◆ 国際貨物取扱量 **全国8位**
- ◆ 乗継割引区間は **全国最多**

（出典）国土交通省航空局
「平成26年（暦年）空港別順位表」

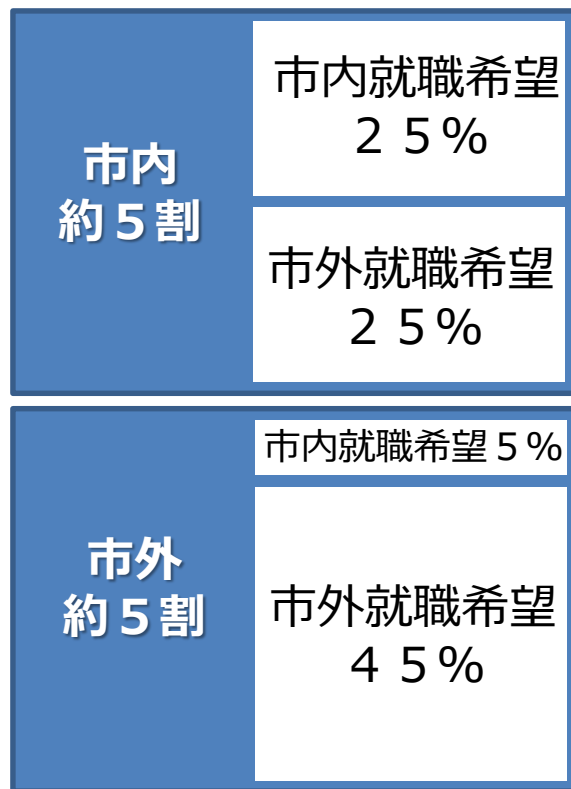
市内在住高校3年生の居住意向

2015年6月～7月にかけて、市内全日制高等学校(6校)の3年生1,260名(回収率94%)への進学・就職に関する意識調査を実施。

【高卒後の希望】



【将来の居住希望先】



- ❖市内在住の高校3年生の希望を集計すると、将来居住希望先は、市内外ともに約5割であった。男女別の傾向では、女性の方が市外へ出る希望が若干高かった。
- ❖市外への進学・就職を抑制し、将来、小松に居住する若者を増加させるため、市外へ出てしまう要因を捉え、改善することが必要となってくる。

(出典)小松市調査

市外に居住したいと考える高校3年生の求めるもの

①希望する学問があること

- ❖ 高校生が進学先を決める際に最も重視することは「学部・学科」であり、希望する学びが市内にあることが重要である。将来やりたい仕事に必要となってくる、大卒レベルの専門的スキルや資格の取得などを求めて市外へ進学するものと思われる。

②希望する仕事があること

- ❖ 男子学生の希望では本市の特色でもあるものづくり産業系の業種が多く、女子学生の希望では事務・サービス系の業種が多い。
- ❖ ものづくり産業を軸として、ICT等の関連する産業の創出・育成・集積等により、若者の求める多様な希望に対応するとともに、女性の求める魅力的なしごとづくりも重要である。
- ❖ 就労機会の確保に加え、学生に対するUターンの情報提供や就業支援等、地元企業と学生のマッチングも重要である。

③その他の居住先選定重要要因

- ❖ 「家族や友人とのつながり」を重視し、地元に住みたいという意向が多い。
- ❖ 「買い物や遊びの利便性」や「大都市圏とのアクセス」も重視しており、都市機能の強化も求められる。

(出典)小松市調査

市外に求める主な学問分野 (複数回答)

【男性】

工学系	45%
理学系	19%
経済系	16%

【女性】

人文系	17%
経済系	14%
芸術系	14%

市外に求める主な就職分野

(複数回答)

【男性】

製造技術者	25%
製造工程従事者	17%
情報処理・情報技術者	17%

【女性】

事務従事者	22%
販売・営業従事者	14%
小中高校の教員	9%

※製造工程従事者…製造・加工・組立等の現場従事者

※事務従事者…総合職・一般事務職(公務員含)

● 問い合わせ先

小松市 総合政策部 経営政策課

〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地

TEL:0761-24-8037 FAX:0761-21-0285

E-mail:kikaku@city.komatsu.lg.jp